明治三十六年二月二十日發行
（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第百五拾九號

私立大日本婦人衛生會

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十五日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

婦人衞生雜誌

第百五十九號　目次

本會講演

寄書

應急處置

衞生時事

質疑欄

衞生雜話

中外彙報

大日本婦人衞生會記事

宮内省告示第一號（官報轉載）

今般彰仁親王殿下ノ情願ニ依リ小松宮繼嗣ヲ止メ依仁親王殿下ニ東伏見宮ノ稱號ヲ允可セラル

明治三十六年二月二日

宮内大臣　子爵　田中光顯

右告示により本會總裁殿下にも又東伏見宮と改稱せらる謹んで此段會員諸君に告ぐ

私立大日本婦人衞生會

●三月例會報告

來三月七日（第一土曜日）午後正一時半より麴町區虎之門内東京女學館講堂に於て本會の例會を開く（晴雨共）左の講演あり萬障御繰合せ御知友御誘引御來會被下度候也

追而來三月は總會の規定に候處右は五月初旬懇親會と共に舉行の事に相決し候間此段御了承有之度候也

演題未定　ドクトル　宮本叔君

齒科衞生談　ドクトル　久保田誠麿君

●御注意　來四月雜誌には本支會役員及會員名簿調製挿入可致候間各支會役員賛成員并に會員方御住所等御届漏れの分は至急本會事務所宛御一報相成度候也

私立大日本婦人衞生會

私立 大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを皆ともに希はざるはあらざれども此身健康にあらざれば此生活を得んをいと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつはら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは寔に喜はしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人胥ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集合を開き學識經驗ある人々を招請して衛生上諸般の講義演說談話を聽き互に相研究し尙之を纂記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖ゝ諸愛姉に告げ其贊成を仰ふくことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則（明治廿二年十二月改正）

●第一章　目的

第一條　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

●第二章　名稱位置

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く

●第三章　會員

第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會するヿを得

第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし

第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿二圓以上特別會員は一ケ月金三拾錢以上、通常會員は一ケ月金拾五錢を納むる者とす

第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同し但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議により無會費とすることあるべし

第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得

第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親睦知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず

●第四章　役員

第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす

第十條　本會に左の役員を置く

會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名

第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託するヿあるべし

第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計　第二編輯出版、第三庶務とす

第十三條　會長の見込を以て役員外若に會員中より臨時指名委員を置くことあるべし

第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ケ年とす滿期再選することを得若し任期中缺位を生するときは次點者を以て補缺す

第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す

●第五章　集會

第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午後一時より開會するものとす總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし評議員會は時々開會須要の事項を評議するものとす

第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす

第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむるヿを得（但衣服は總て質素たるべきこと）

第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員に緣故ある男子は此限にあらず

第二十條　規則の改正を要し又は重要の事件あるときは總會に於て議定するものとす議定は總て多數決とし可否同數なるときは議長之を決するものとす

第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし

●第六章　會計

第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす但些少の金額に限り日用支出の爲め事務所に引出置くことを得

第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす

第廿四條　會計は一ケ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

●第七章　支會

第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得支會は私立大日本婦人衛生會某支會と稱し其規則は本會の規則と抵觸せさる樣起案すべし

第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付するヿを止め支會の規定に依るものとす

第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得

第廿八條　支會に加入したる本會々員に配付すべき本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すへし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同ゝ

第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●第八章　雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し毎會に於ける衛生上の講義演說談話等の筆記及內外彙報本會の諸報告等を揭け之を會員に配付すべし支會の報告あるとき又同ゝ

第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿冊に登錄し尙

本會雜誌を以て報告すべし第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に送信料を添へらるべし（郵券送一銭）第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（牛込局宛）振出しあるべし第卅四條　會員中若し本會の體害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若くは勸告することあるべし第卅五條本規則は會長の意見又は會員二十名以上の贊成に依り總會の決議を經るに非ざれば之を更正することを得ず

事務所　東京市牛込區矢來町三番地

私立大日本婦人衛生會

●役員姓名

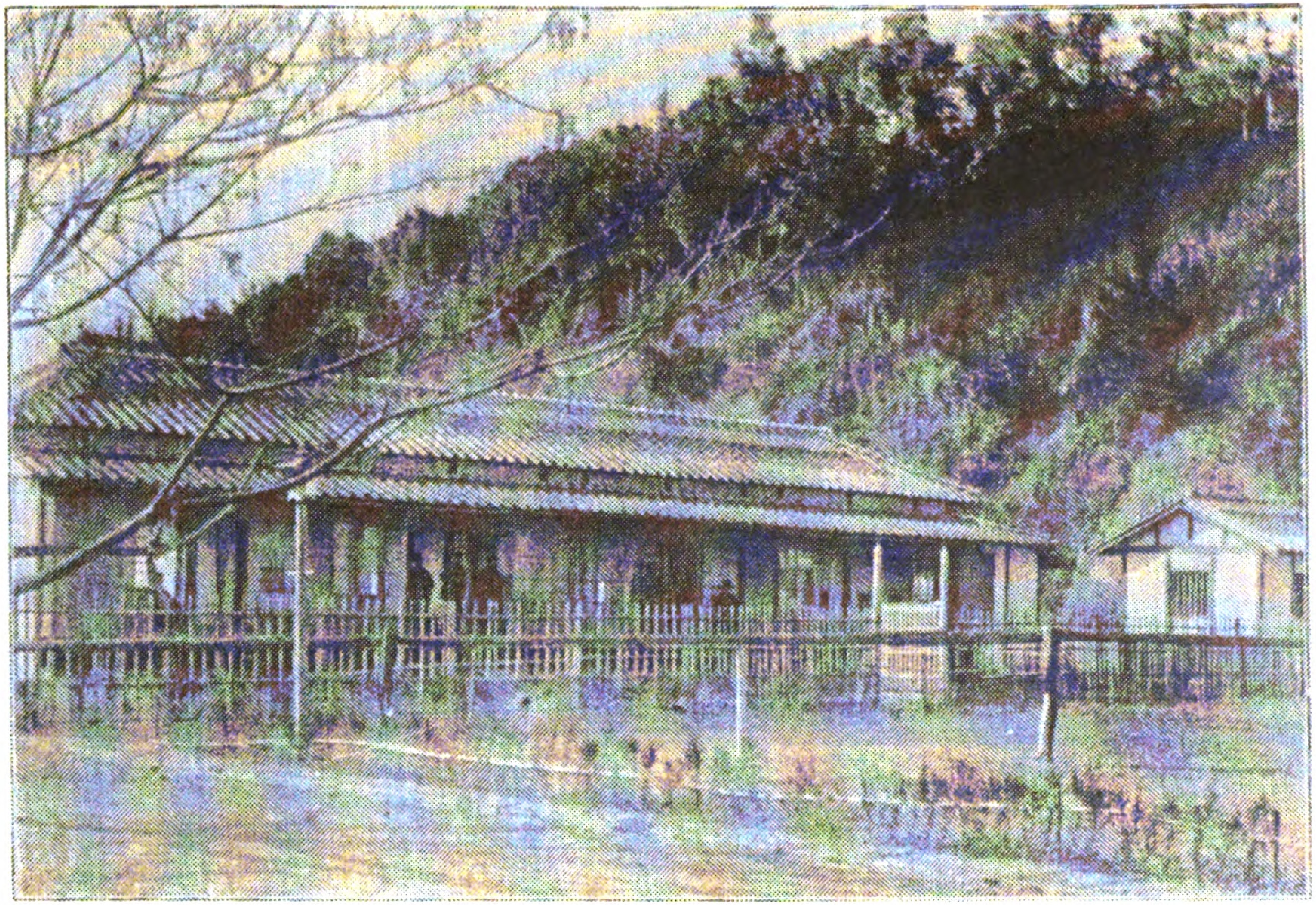
- 總裁　東伏見宮依仁親王妃　周子殿下
- 會長　侯爵夫人　鍋島榮子
- 副會長　濱尾作子
- （いろは順）
- 幹事　鳩山春子
- 仝　羽山三緒子
- 仝　穂積歌子
- 仝　岡田德子
- 仝　高木かう子
- 仝　松平沙子
- 仝　三浦敎子
- 評議員　石川さだ子
- 仝　濱田捨子
- 仝　仁禮壽賀子
- 仝　西丹子
- 仝　男爵夫人　阿部子
- 仝　德富部子
- 仝　緒方悅子
- 仝　男爵夫人　川口直子
- 仝　男爵夫人　加藤鈴子
- 仝　吉武神枝子
- 仝　子爵夫人　田中伊代子
- 仝　高橋孝子
- 仝　丹波貞子
- 仝　男爵夫人　南部興子
- 仝　中濱方子
- 仝　別山とし子
- 仝　山本ゑ德子
- 仝　子爵夫人　松前蘇子
- 仝　子爵夫人　細川玉子
- 仝　馬渡玉子
- 仝　伯爵夫人　松平光子
- 仝　子爵夫人　秋元宗子
- 仝　三宅藤子
- 仝　宮木樂子
- 仝　宮下吹子

●支會　千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎

本會特別贊成員

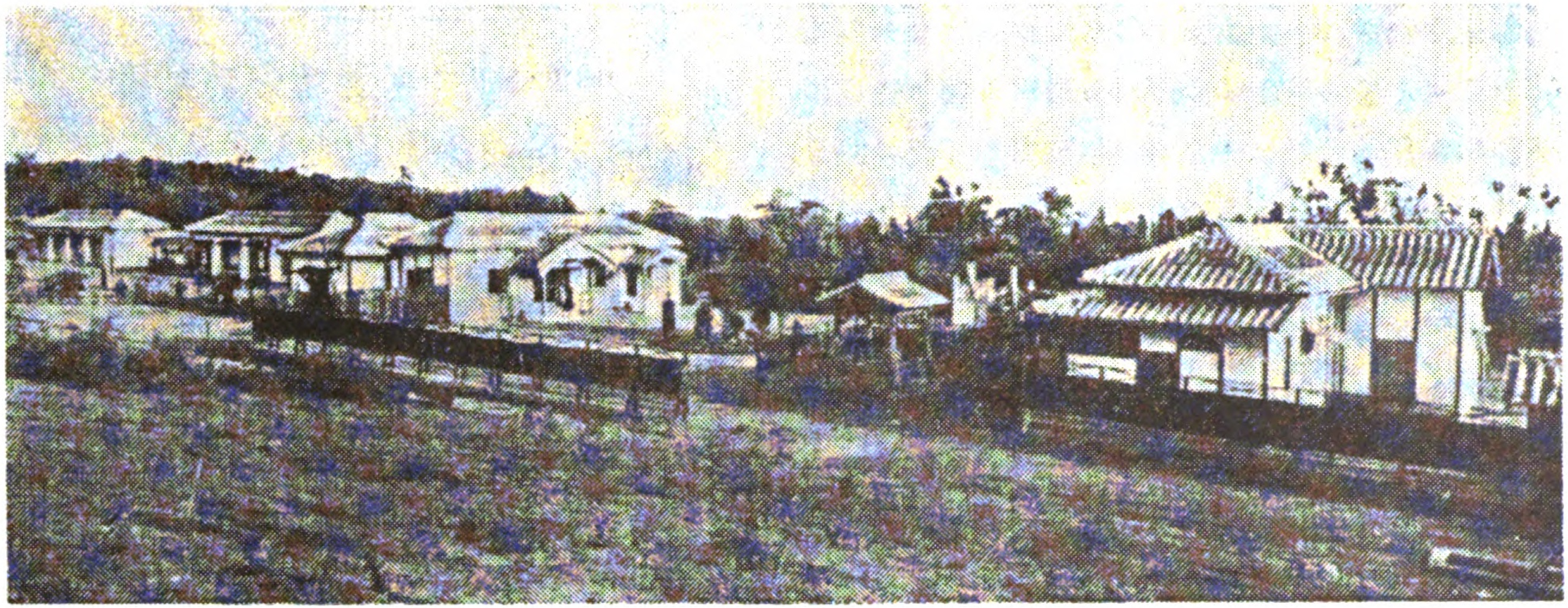
（●は本會に於て講演せられし諸氏）

- 醫學博士　●入澤達吉君
- 理學博士　●飯島魁君
- ドクトル　●伊澤信平君
- 地方視學官　●色川圀士君
- 醫學士　●伊東祐彦君
- ドクトル　●飯盛挺造君
- 醫學博士　●伊藤隼三君
- 理學博士　●石川千代松君
- 内科醫學士　●若井範造君
- 新潟　池原康造君
- 同　池川潔君
- 貴族院議員　濱尾新君
- 醫學博士　●濱田玄達君
- 法學博士　●鳩山和夫君
- 東京　萩原瀾四郎君
- 醫學博士　●芳賀榮二郎君
- 衛生局長　●長谷川泰君
- 新潟　●長谷川一詮君
- 小兒科　小原析之君
- 醫學士　●林次郎君
- 醫學士　●佐藤達次郎君
- 醫學博士　●緒方正規君
- 步兵少佐　●堀內文次郎君
- 醫學博士　●土肥慶三郎君
- 醫學博士　●岡田和一郎君
- 醫學博士　●大澤謙二君
- 醫學士　大西秀治君
- 醫學博士　●大澤岳太郎君
- 一等藥劑官　●恩田重信君
- 醫學士　若杉喜三郎君
- 男爵　●加藤弘之君
- ドクトル　●加藤照麿君
- 醫學士　●賀古鶴所君
- 醫學博士　●河本重次郎君
- 醫學博士　●片山國嘉君
- 醫學士　川上雅重君
- ドクトル　●金杉英五郎君
- 醫學士　●笠原光興君
- 醫學博士　●高橋順太郎君
- ドクトル　●高山紀齋君
- 醫學博士　●高木兼寬君
- 法學博士　●高木門三君
- 醫學博士　●田代義德君
- 新潟　田代完助君
- 男爵　●高崎正風君
- 醫學士　竹中成忠君
- 醫學士　●高山耕安君
- 新潟醫學校長　●高橋辰五郎君
- 藥學博士　●丹波敬三君
- 醫學士　高橋貞頤君
- 藥學博士　●田原良純君
- 醫學博士　●坪井次郎君
- 醫學士　●久保猪之吉君
- 醫學士　米山彥郎君
- 三等軍醫正　早川彥郎君
- 一等軍醫　横井忠國君
- 大日本教育會長　辻新次君
- 理學博士　●坪井正五郎君
- 醫學博士　●長與稱吉君
- 男爵　南部甕男君
- 藥學博士　●長井長義君
- 新潟　長井千尋君
- 醫學博士　●小濱東一郎君
- 新潟　中村勇三郎君
- 醫學士　村松敏三君
- 醫學博士　●隈川宗雄君
- 醫學博士　●栗本東明君
- 醫學士　●山田鐵三君
- 大審院判事　馬屋原彰君
- 醫學士　●山根正次君
- 滿川　山川孫二君
- 醫學士　●丸茂文良君
- 衛生試驗所技手　●丸山長四郎君
- 松山病院　●松山棟庵君
- ドクトル　●小柴信六郎君
- 盲啞學校長　●小西信八君
- 廣島　小泉貫君
- 醫學士　吉川榮君
- 東京　布施正顯君
- 衛生局長　●後藤新平君
- 東京大學教授　●エ、ベルツ君
- 醫學士　●甲野棐君
- 文部書記官　●寺田勇吉君
- 子爵　●秋元興朝君
- 前軍醫總監　●足立寛君
- ドクトル　●新井古芳君
- 新潟　阿部支四郎君
- 高崎　上谷个次郎君
- 高崎病院長　●本原長瀨君
- 醫學博士　●ミスリツテル
- 醫學士　●佐々木政吉君
- 醫學士　淺田決君
- ドクトル　朝倉文三君
- ドクトル　●朝山義六君
- 高崎　●秋田聰太郎君
- 醫學博士　佐藤三吉君
- 醫學士　佐井郁二郎君
- 醫學士　●佐藤恒久君
- ドクトル　●佐伯理一郎君
- ドクトル　●榊順次郎君
- 醫學士　●前保三郎君
- 醫學士　●櫻井恒次郎君
- 醫學士　●北村精造君
- ドクトル　●北川乙二郎君
- 醫學士　●木下正中君
- 醫學士　●北島小太郎君
- 醫學博士　●北里柴三郎君
- 醫學博士　三浦守治君
- 醫學博士　●三浦謹之助君
- 小兒科專門　●宮本仲君
- 理學博士　●箕作佳吉君
- 醫學博士　●三島通良君
- 醫學博士　●三宅秀君
- 醫學士　●三輪信太郎君
- 新潟　水野欽君
- 伯爵　●土方久元君
- 醫學士　●島村俊一君
- 醫學博士　●弘山長君
- ドクトル　●須山卓爾君
- ●ミスヒユース
- 醫學士　●笹川三男三君
- 醫學士　波多野秀三君
- 醫學博士　矢厚君
- 八□子　●巾川瀧君



室病築新年四十三治明

LEPER HOSPITAL AT KUMAMOTO, KIUSHU, S. JAPAN.



熊本回春病院（慈善癩病院）

講　演

癩病者の救護（於大日本婦人衞生會）

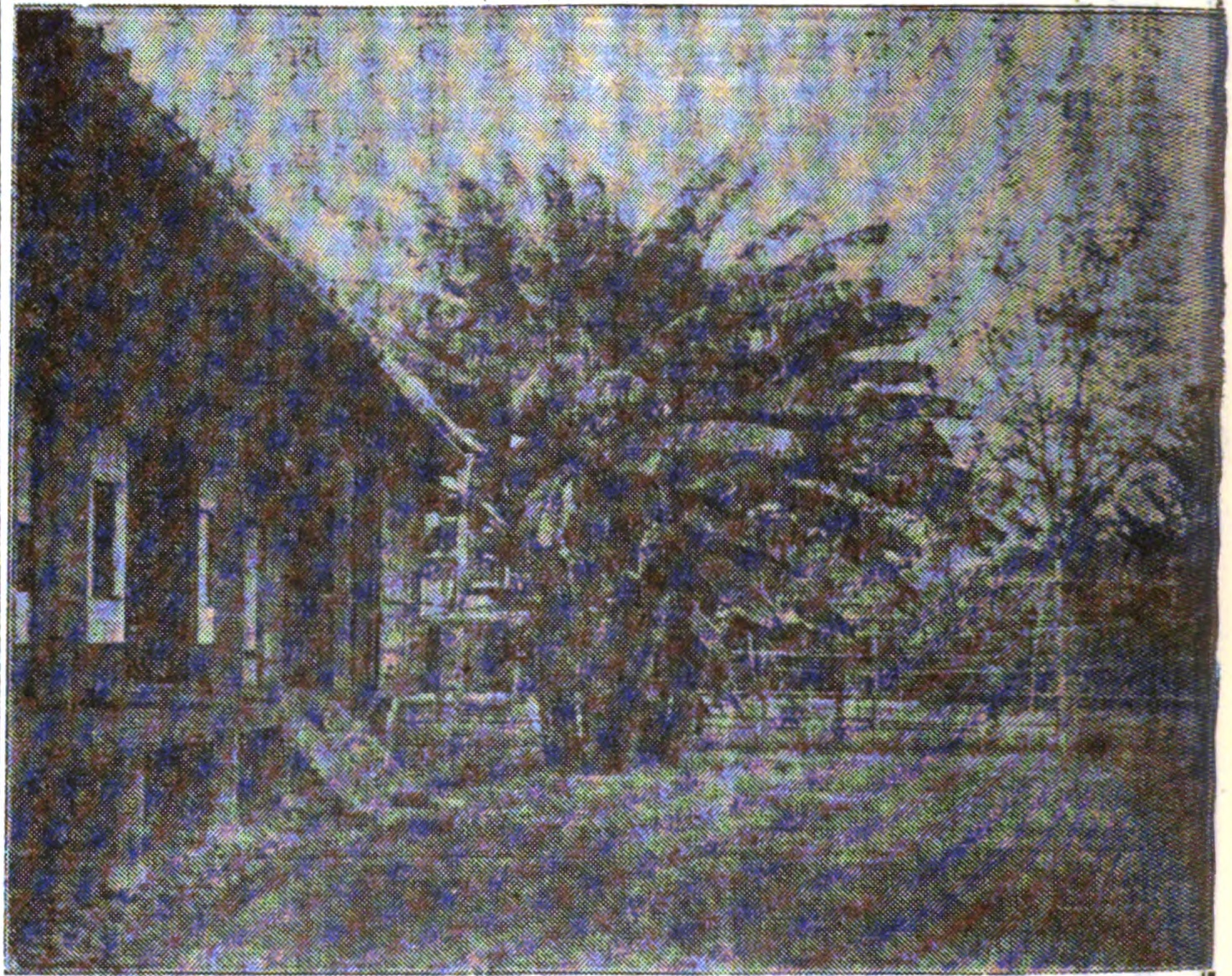
ミスリデル演説
本田增次郎君通譯
佃速記事務所員速記

熊本の市外一里ばかりの處に、本妙寺と申す法華宗の寺がございまして、此寺には三百年ほど前の熊本城主であつた加藤清正を葬つてございますが、此人よりも強い人は世界の歴史上に至つて少ない事と存じます。立派な政治家であり、大將としては猶以て豪らく、驚くべき躰力もございましたが、傳說に據りますと、此加藤清正自身が癩病に罹りまして、法華宗を信じて其の祈りに由つて、癩病が癒つたと申すことに聞及んでゐます。さういふ因緣のためか、此本妙寺に集つて參る癩病人の數は夥しいことで、日本各地から祈願のために參るのでございます。

私が初めて此寺に參りましたのは、唯今より十年ほど前の春でございました。其日は會式に當りまして、時しも空天は誠に麗かに晴れ亘り、道路の兩側には三四町も續いて櫻の花が今を盛りと咲いて居る。其の青き空、其の麗しき花の下には何物があるかと見ますれば、それは此上もない悲慘の光景で、男、女、小供の癩病人が幾十人となく道路の兩側に蹲まつて居まして、或は眼のなき、鼻の落ちたる、或は手あれども指なく、足あれども指が落ちて居ると申すやうな次第で、そんな病人が競つて、自分の痛ましき病氣の有樣を態々と、其の寺に參詣いたす人々に見せて憐みを乞ふて居ました。この寺の下の平かな櫻の並木を通りこして、進んで寺に登ります處には、澤山の石段がございますが、此處にも同じく石段の兩側に、一段に一人づゝと申すほど大勢の癩病人が憐みを乞ひ佛を祈つてゐまして、甚しきは極く稚さ

い小供が母親の手に懷かれて居る。其の小供も大概は癩病或は其他の目も當てられぬ皮膚病の爲めに、恐ろしへ有樣になつて居ります。其の稚ない小供も親に教えられて、小さい痛ましい手を出して往來の人に恤みを乞ふて居ります。それから上に昇つて寺に近づくに從ひまして、太鼓の音と祈りの聲が聞えます。寺の前の拜殿には大勢の男女の病人が、手を高く擧げ頭を擧げて珠數をうちもんて南無妙法蓮華經、南無妙法蓮華經と連呼して、熱心に惠みを求めてをります。其左手に別の建物がございまして、此處には太鼓の前に十八歲ばかりの若い癩病人が、目も當てられぬ姿で狂氣の如くに、太鼓の音につれて頭をうちふりながら祈つて居りますが、聽て逆上して、氣絕して仆れて仕舞ふと申すやうな有樣でございます。是は十年前に私が初めて見ました光景でございますが、其後此樣な有樣は幾度も見ましたけども、此時ほど大勢集つて居ました事はないと存じます。

さて此愍むべき癩病人の爲めに、其苦しみを減じ輕めるやうに、どれだけの事が出來て居ますかと申すことを、私が研究するに至りましたのは自然の勢でございませうが、貧困な人や醫藥の爲めに財產を失つてしまつた者の爲めには、政府の働きとしても、宗教事業としても、此癩病人の苦痛と絕望の二重の悲劇を救ふ爲めに、日本國中何も出來て居りませぬことを發見いたしました。金錢のない癩病人に取つては、死ぬるよりも淺ましい非人の身分に落ちて、家を棄て愛するものに離れるより外に、天にも地にも其の日を送る方法がございません。しかも身躰も精神も衰へて、家庭や友人の世話の尤も必要な時に、此乞食の身分に落ちるは何たる悲みでございませうか。こんな人は親戚朋友の耻辱不面目を防ぐために、唯一人て流浪して、唯一人て永年の苦痛を忍んで、終には人に知られず看護も受けず、吊ふ者もなく死んでしまふのでございます。私は此癩病者の身躰と精神の苦みを救ふ爲めに、何か聽文の事をいたしま



禮拜室及其庭園

して、日本國民の精血を絞つて居ると申しても宜しい此難病の爲めに、どうか治療の方法でも得られる事なら、如何なる勞苦をも厭ふまじと決心いたしました。それて政府の統計にのつて居る癩病人の數は殆んど信ぜられませず、統計にのらぬ隱してある分は無論勘定が出來ませんが、三縣だけの昨年の調べで五万人に達して居ます。

今より八年前に英國の友人の補助によりまして、熊本の市外に大凡四千坪許りの地面を買求めまして、日本風の病院を建てることに致しました。當時建築の事について岩井さんの經驗あるお指圖によりましたが、今日に至るまで病人の健康に適し流行病などの嘗てなきは、其のお指圖のお蔭と存じます、それで唯今の所では病室が三棟あつて、二棟は男子の爲め、

一棟は婦人患者の爲めに用ゐて居ります。さうして其一棟を四室に區劃して、病氣の輕重に依つて成るべく之を別けて置きます樣な都合にしてございます。又男女別々の浴室が二棟と藥局、診察所、患者控所、取締室、藥局生控所、臺所、賄部屋を併せた大きな建物一棟と、それから又別に監督醫員と其家族の住宅もございます。唯今では三十八人の入院患者と二人の看護婦がございまして、入院患者の中には五歳と七歳の小娘二人、十二と十四の姉と弟がございます。皆んな機嫌よく喜んで居まして、外の教育ある患者たちに敎へられて、毎朝二時間づゝ勉强を致して居ます。私が此度東京に參りましてから、年長の患者からも小供たちからも、能く書いた手紙を私に送つて參りました。

病人が色々と互に助け合ふ樣子は實に見て涙がこぼれるやうでございます。敎師として學問を敎へるもあり、目なきもの丶爲めに目を用ゐて助けるもあり、指や足のあるものは、そのないものを助けると申す風て、通例四人の患者を集めてやつと一人前の並の人間の働きが出來ます。病院内の藥局の外に、本妙寺の近邊に別に一箇所施藥所がございます。此處にも經驗ある看護婦を一人付けて置きまして（此看護婦の夫と義の妹とは病院の入院患者でございます）、醫員が毎週一回水曜日に出張して、患者の診察やら、次の一週間にすべき洗滌繃帶などの指圖を看護婦に致す事になつて居ます。

病院創立の初めより田尻寅雄氏の盡力を多く受けましたが、此方は北里博士の門人で、博士の療法も段々試みて見ました。併し昨年來は東京帝國大學の土肥博士のお指圖を願ひまして、それに過ぐる七年間の經驗を加へて事業を經營いたして居ます。

それで癩病が絶對的に治し得られるとは申しかねますが、病勢の進行を止め、恐ろしい疵を治し、世に棄てられた憐むべき人を、無病な男女（即ち無病な癩病人と申すやうなもの）に致し得られる事は、澤山な實證がございます。唯今病院へ參る患者の一人

は、九州鐵道の役員として相當な暮しを致して居ますし、又一人は自ら働いて母と兄弟を養つて居ます。

數年前に一人の娘を其の友人が私どもへ連れて參りましたが、此人は十七歳で、肩や腕に皮膚病が出來ましたので、熊本市内の醫者に診察を受けに參りました處が、これは癩病であると申されましたので、其の時は死んで居ると言はれたと同じやうな心地がしたと後に話して居ました。それて生きて甲斐なしと思ひ迫つて、醫者から歸り道に其の近所の川に溺れて自殺しやうと致しましたが、巡査に見つけられ救はれて、終に私共の病院に三年も入院して居ましたが、大分よくなつて家に歸りまして、今ては唯一人の血筋てある年取つた伯母を養つて居ます。

二個月程前に入院いたした小田しげと申す者がございますが、是れは當年三十四歳て、其娘の七歳になりますのと共に入院して居ます。此人は熊本から十里ばかり隔たつた處に住んてゐましたが、癩病のために、手にも腕にも、足にも膿だらけの腫物が出來て、それから又口耳鼻咽喉、口蓋の處なども段々崩れかゝつて居りますし、それから目は片つ方が潰れて紫色に爛れて居ます。そんな有樣て本妙寺へ參詣のために、道中袖乞をしながら、十里の道を遙々自身と娘とを引きずり〱熊本へ出ました。乞食をしながら四ヶ月も本妙寺に居ましたのてございますが、或る時氣が附きまして途中で逢ひました時に、施藥所へ參れと勸めました所が、私の勸めに從つて參りまして、それから遂に入院を致すことになりました。それから段々疵などは宜くなつて參りましたが、何分重い病人て、當今では殆んど全く音聲が出ないと申す有樣て、唯纔に療治の力を以て苦痛を柔らげ、死を待つのみてございます。今日當直の醫員から受けました手紙に據りますれば、前途が甚だ短いやうだと申すことてございます。其の娘のおつゆと申すのは誠に活潑な愛らしい子供て、日本の夏の空天のやうな愉快な娘でございますが、足一本、腕一本ともに、まだ崩れては居りませんけれども、肉

が段々縮み上つて癩病の兆候が現れてゐます。母がはつきり癩病になつてから後に生まれたのでございますから、前途誠に憫むべきものでございます。此母子はそれ程重くない二人の婦人と、同じ部屋に四人置いてありますが、其の輕い方の一人は、我が愛する子供を自宅に殘して入院して居りますために、其七歳になるおつゆの世話を誠によく致しまして、恰も我が子の如くに親に代つて愛して居ます。

それから最近の入院者は津田又太郎と申して、當年四十二歳で、十七年間癩病に罹つて居りまして、其の以前は巡査でございましたが、癩病になつてから後三年前までは、指を用ゐることの出來る限り傘張りを致して居りました。けれども近頃では指が大分落ちて仕舞ひして、殘



小田シゲ及其少女

つて居る指も全然感じがございませぬ。右の足は踝の處、左の足は膝の處から腐つて落ちかゝつて居りますし、兩足とも指はございませんて、實に目も當てられぬ病氣て、全身に崩れかゝつた恐ろしい斑があつて、頭の頂上の斑は長さ四インチ幅一インチもございます。これも死ぬのを待つばかりて、何も自分の用を足すことが出來ません。毎日其療治を醫者が長々といたしました後は、患者の輕い者が一人づゝ終日側に附いて看病して居ます。

それから今一つの例を申上げますが、それは下林某と申す婦人て、前年までは外來患者で、入院を致して居ませんてございましたが、誠に貧乏て、病氣も重いことを見受けましたから、機會を求めて話しかけて見ました所が、其婦人の言語動作が如何にも閑雅て、淑女らしい教育のある人らしい。それて病院へ參ります毎に、別の處に呼寄せて、人を遠ざけて話をいたしましたが、ひどい斑もありますし、其手足の指も大分無くなつて居ました。暫く病院に通つて居ましたが、それから二週間ほどトント藥を貰ひに參らなくなりましたから、醫者と看護婦に同道して其宿所を訪ねさせました。やつと其の住家と申すものを見つけました所が、目も當てられぬ穢ない小屋の內に、餓死せんばかりの有樣になつて居ました。是は病氣のためと申すよりも、寧ろ空腹ために、さういふ風になつたのてございます。唯二人其處に居つて熱が出ました爲めに、自から御飯を炊くことも出來ないて、幾日も食べずに居りました。近處の人が居りましても癩病人たるが故に、少しも其處へ參つて助けて世話をして與れませぬ。癩病人となることは誠に恐ろしい事てあると感じました。後に能く調べて見ると、此人は十七歲で結婚して十九歲のとき癩病になりまして、二十歲を少し越しました時に、夫から置き去りにされて仕舞ひましたので、元は下女を使ひ、裕かに暮して居りました自分が、段々この樣に零落て、誠に何とも言はれない貧乏と病苦とに陷りましたのでございます。併し入院いたしまし

てからは、苦しみを減じ疵の治療も出來て、餘程喜んで居ました。私は四年前英國に歸省いたしました其時に、此病院の患者一同に訣別の爲めに參りました。其時に此婦人は私が歸りますのを、後を送つてわざ〳〵他の人よりも離れて、私のところに出て參りました。其時には互に何も言葉では申しませんでしたけれども、私の心の中にも、向ふの病人の心の中にも、再び此世で會ふことはあるまいと云ふ考がへがございました。其の時病人は訣別に臨んで涙を浮べましたが、其の涙と申すのは、貴所方がお流しになる、又私の目から出ますやうな涙とは違ひまして、それは黄色の膿の涙でございます。さうして通常の涙のやうに、流れると申すよりも、纔に目から出て頬の上へ緩やかに垂れるといふ樣な有樣でございます。誠に癩病になりますと、純粹の通常の涙を流すと云ふだけの贅澤も、此愛情深き憐な婦人に許されない次第でございます。

斯樣な患者は幾人もございますが、唯今其例を擧げますことは之に止めて置きまして、箱館東京其外日本の各地から其病院に參つて居りますが、是は全く親戚朋友を離れるためでございます。其者が近處に居りますると、離緣とか擯斥とか、一族全躰の耻辱になると申すので、成るだけ親子兄弟を離れますのでございます。然るに純粹の乞食に零落て、路傍の袖乞に慣れた者は入院を致すことを大抵厭がりまして、日々の貰ひ高を以て、夜になると木賃宿て自由に飲食をして、隨分不品行なことを致す方を好みます、癩病人のとまる木賃宿と申すは大抵癩病人が所有して居まして、其中では恐ろしい不道德が行はれて居ます。

それて極下等な人は大抵施藥所へ藥を貰ひに參るばかりて、入院患者の方は概して身分のある人が、山師醫者などにだまされて其の資産を失ひ、もしこちらへ入院せずば乞食に落ちるといふやうな人でございます。學校教師、官吏、傳道者、農民、陸軍士官、或は相當の店を持つて居ました者などがありまし

て、皆んな金は全く無くなる、大抵は友人もなくなつた人でございます。それで此病氣は果して傳染するものであるや否やと申すことは、皆さんのお心に起る疑問でございますが、癩症は肺病ほどには傳染いたしません。肺病の如きは病毒が呼吸から傳はりますから、同じ部屋に居りますれば、誰にでも傳染することが有勝ちでございませうが、此癩病は血液の病氣でございますから、注意が宜しければ、同じ部屋に居つても傳染しないといふこともありますが、又注意を致しません場合には隨分傳染し易い。或は皮膚に疵のある所から、或は誠に恐るべきは、茶碗などゝか、食物とか申すやうなものからバチルスが入つて參ります。

病院の內では注意して防ぐことが出來ますけれども、外に於て人の氣のつかぬ所に恐しい危險のある事を忘れてはなりませぬ。何となれば外來患者に聞いて見ますと、癩病に罹りましてからでも働ける間は骨の折れない仕事を致して、糊口の道を講じます。其の骨の折れない仕事は大抵食物に關係のある仕事でございまして、或は野菜を賣つて居たり、或は魚を捕へて賣つて歩きます。今一つの例は、今年の初め熊本市內に居る二人の癩病人が入院を願ひましたから、其の身分を取調べますと、四人とも癩病の一家族で、其の中一番病氣の輕い一人の悴が店に居りまして、それから奥に入つて見ますと、癩病の最も甚い母と娘と、も一人の悴とが人に見えぬやう隱れて居まして、母と娘が菓子を拵へて、それを表で賣つて居るといふ樣な譯でございます。

今日此熊本の癩病院で費して居ます所は何程かと申しますと、先づ年々五千圓ほどでございますが、會計決算は香港上海銀行の役員に年々檢查して貰ひます。數名の英國の友人と一人の日本の貴婦人は、此病人を一人づゝ引受けて下さいました。一人一年の經費は百圓ほどでございます。又二人三人のお方が組合つて、一人を引受けると申すのもございます。さういふのは一年に一二回づゝ病人の有樣を其の寄

附者に報告すると云ふことに致して居ります。何分段々患者も殖え、事業も擴張いたしまするに就きましては、費用も多くなつて參ります次第でございますから、寄附を段々多く願ふ事が是非必要になつて參ります。此仕事を私は八年間致して居ます間に、癩病人の爲めにする仕事は悲しい厭ふ仕事であらうと云ふ、御同情の言葉を受けますとも度々ございますが、成程悲しいに違いございませぬけれど、併しながら一方には私の一生涯に於て、此癩病人の爲めに致しました仕事ほど誠に樂しいと感ずることはございません。それで悲しさも忘れることが出來ます。今日までの所では主に英國の朋友から同情を得て事業を繼續いたしたのでございますが、今日以後は他の事柄同樣、此癩病院の事業に於きましても、日英同盟と申すことになりますことを信じて樂んで居ます。

今一つの終りに申上げたいことは、此癩病人は將來如何いたしたら宜しいかと申すことでございます。政府て何とかなさるべきであると申す人々も隨分ございます。又追々政府でもなさるでありませうが、或は癩病人を悉く一所に集めて、少しばかり食物を與へて、段々と死に絶えさせる樣にしたら、國家の厄介者をなくする事が出來やうとおつしやる方もありますけれど、布哇のモロカイ島に癩病人を集めて隔離しました經驗を見ますと、實に殘酷な處置であると思はれます。國籍階級の如何に拘らず、癩病人も矢張私共の同胞兄弟姉妹で、死に瀕して居る同胞でございます。若し私共自身が癩病人になつた時には、何う取扱はれたら宜しいかと申すことを考へましても、最少し親切にしなければならないと思ひます。素より既に癩病になつたと云ふことが絶望の生涯でございます。又悲しき、忌はしき、愧づべき生涯でございますが、人は死ぬといふことを目の前に控へて居るほど悲しいことはございませんのに、此癩病患者の死ぬと申すのは永い間がかゝつて、十五年乃至二十年の恥と苦しみを經なければなりませんが、

其間日々我が死ぬといふことが目の前にあるのでございます。さういふ譯でございますから、私の考へますには、大きな場所に大勢の病人を集めませんて、十人か二十人づゝを一軒の家に隔離して、男女別々にして置きまして、さうして身分に依り地位に依つて、それ相應に極く安泰の一生を終られるやうに、其の病人の家元から出金致すやうに政府が世話致しましたら、政府でも費用を要することは誠に少なくて、絶對的に貧乏な癩病人だけを救へば濟まうと思ひます、斯くなりますれば、軍艦を一艘維持するだけの費用でもつて、五十年の内に一人も日本に癩病人をなくする事が出來やうと思ひます。

私は爰に二つの事を皆樣に熱心に訴へたいと存じます。それは日本國の爲めに一日も早く此恐ろしい害毒を滅絶することゝ、人類の爲めに奮つて此病者を救ひ慰め、人間の身体と精神とにあられん限りの苦痛、耻辱、絶望に陷つて、時々刻々無限の悲劇中に沈み行く人々に同情を寄せられん事でございます。

今日此處に罷出まして、皆樣にお訴へ申しましたのも全く之に由る次第でございます



家庭看護法

（於大日本婦人衛生會前回の續）

醫學博士　三宅秀述
個速記事務所員速記

私が夏期休會前に看護法のお話をいたして居りまする頃は暑い頃でございました故丁度其講話いたしまする事柄も水の話を致して、それから引續いて氷を病人に與へることを申掛りました所が時間が乏しくなつたので、氷だけはお預りにして置きました、唯今は氷の時節よりは少し涼しくなり過ぎましたけれども前の續きでございますから今日は氷のお話をいたします御承知の通りに氷を看病に使ひますることは廣く澤山に使はれますけれども私のお話仕續けて居りまするのは食べる方のことでございます、口へ入れる方のものをお話するのでありますから、氷嚢

などへ入れて病處へ當てることは他日申すかも知れませぬが唯今の所では飲食用の氷のことを述べます。近頃のやうに氷を容易く得て病人に用ゐられるやうになつたのは誠に仕合な世の中でござりますが以前は氷を得ることが出來ませなんだからして冷水で濟まして居つた、けれども冷水では何うしても氷だけの用を足すことは出來ませぬ、其譯は水を氷だけに使はふと云ふ時には澤山用ゐなければなりませぬ、氷は小さい片を一ッ含んでも、冷水をコップに一杯と同じだけ、或はそれよりも餘計に冷やす功能を有つて居りますから咽喉の渇いた時などには水をガブ〳〵澤山飲むよりは少量の氷を舌の頭に載せたばかりで渇が止まります、それ程のものでございますから氷を水の代りに使ふと云ふのが法なのでありますが、氷の代りに水を使ふと云ふことは出來ないのでございます丁度夏分熱病などを患らつて居る者には總ての飲料の中に氷を少量づゝ加えて冷やして食べさせ、藥にも氷を入れて與へますと病人が喜んで至極旨しく食べます、それから吐の强い病人があつて如何しても吐氣が止まぬと云ふ時分には、氷を少量づゝ小さくしたのを用ゐます、それから下利の病人は咽喉が渇きますけれども之には水を澤山與へてはならないから、然う云ふ時分には僅の分量で渇を止めるには氷に限る、矢張り細かに碎いて病人の咽喉の渇を止める爲めに用ゐます、ソコで此氷でございますが勿論良い氷でなければなりませぬ、口中へ入れるのであるから其性質の良い警視廳で檢査濟になつたものでなければなりません併し其氷をお費用お拂ひなしに澤山買つて冗に溶かして仕舞ふと云ふやうな不經濟なことては家庭看護法には籍らぬ、能く病院などに行くと看病婦が甚だ不經濟に氷を溶かして仕舞ふやうなことをするが家庭で看護をする場合には成るべく儉約に儉約をして、冗費を省きさうして氷の品の良いのを撰むことは幾ら價を高く出しても良いのを撰まなければならぬが、決して其氷が無駄に溶けて仕舞ふやうなことてはならぬ併し僅かば

かり氷を求めて、さうして病人の好むだけづゝ與へて何遍も〱氷を買ひに遣ると云ふことも不便であるから大概何程位氷が要ると見積りをして氷を取寄せて置かなければなりませぬ。さて其氷を食べるだけづゝ碎いて用ゐ、さうして氷は細かに碎くと早く溶けるものであるから、成べく大塊のまゝで取つて置く方が經濟であります、又氷を得難い處では氷を製つて病人に與へる法がありますけれども、それは大仕掛になるから家庭看護法には向かない併し夏でも氷が出來ないのではない又製氷會社のやうな大きな事業として氷を拵へないでも、小さい茶筒一本位の——恰度アイスクリームでも拵へるやうな大きさならば小さい器械を以て自家で拵へることが出來ます、唯それには一ツの製氷器械を要するのであります、それに使ふ藥は硝酸アンモニアを使ふので此藥は一向廢物にならないものでございます、一度氷を拵へるのに使つて、さうして其用ゐて仕舞つた所の硝酸アンモニアが水で溶けたのは鍋に入れて煮詰めると元の通りになりますから何遍でも火に掛けて煎じ詰めて丁度鹽のやうな形にして取つて置けますし一度器械を手に入れて置けば好に應じて夏でも氷が出來ます、それであるから若し己が氷を得難いやうな處に住んで居ても氷の必要を感じたならば直に得られますし又必ずしも看病の爲めばかりではない其他の事にも色々需用のあるものでございますから小さい製氷器械の一個位は所持して居つても決して贅澤ではない

それから市中から氷を求めて參つて自分が其氷を大塊のまゝで貯へて置きますには何方も既に爲さつてお出でゝございませうが、氷屋で乾いた鋸屑の中に入れて呉れますのを其儘で置きましても宜しい、けれども鋸屑が着いて居りますと一々それを洗落しませぬければ口中へ入れる氷になりませぬ、其洗落すために氷が溶けて費へになりますから之を防ぐには清潔な毛織の布に包んで置くと宜しうございます大概毛布に包むか又は西洋手拭に包んで貯へて置くの

が宜しい併し最も宜しいのは貯氷箱と云ふのがある是は一つの臺所道具に屬して居る位のもので、家毎に貯氷箱と云ふものを持つて居りますと宜いそれは木の箱で二重になつて居りますから、それに大塊のまゝ貯藏つて置きますると氷ばかりではない其他の食物などを藏つて置くにも便利てございます此道具を自宅に備へて置くのも決して驕りの沙汰てはない至極重寶の道具でございます私共は實際に氷を貯へる箱を東京などて得られない頃には、間に合せにブリツキ鑵て拵へました、石油の空鑵の上を切つて、さうして四角な箱にして其中に又ブリツキを以て中段を吊つて、細かい穴を穿けて、其中底のある上に、氷を清潔に洗つて、西洋手拭に包んて入れて置き、それから箱の上にブリツキの蓋を拵へて閉ぢます丁度假に拵へた貯氷箱になるので即ち二重になつて居て、外部はブリツキて中は布と斯う云ふ工合に出來て居るのでございます、若し少しづゝ溶けて染出すやうなことがあると其水は中底の穴から下へ下りてしまいまして始終濡れて居りませぬから隨分永く置くことが出來ます、之には好い器械が今日ては澤山あつて、臺所に置かぬでも、座敷に持つて來ても躰裁の宜いのがありますが併し家毎に備へることは出來ませぬから先づ間に合せのものだけをお話して此位に止めて置きます。

それから此食べる氷でも又は氷嚢に入れる氷でも氷は成べく細かに碎く方が宜しうございます而も粒が揃つて居る方が宜しい、ソコで其粒の揃つた細かいのを拵へるのは隨分難かしいから、それにも種々な氷碎器械と云ふものがあつて別段に粒を揃へたやうにする器械がございます之も家庭看護法の用としては備へる譯にも參りませぬ併し看病の時ばかりてはなく氷と云ふものは夏分は誰の家でも多少使ひますから種々な氷碎器械があります私は今日は持つて來ませぬが、態々亞米利加から一ツ新形を取寄せました、併し是は皆さんに勸める程に宜しくございませぬが其道具の構造から見ますと恰度角砂糖位の大き

さに碎ける譯でありますゝ大氷塊の隅を此鑿でトン〳〵と叩くと角砂糖位に揃つて碎ける約束でありますけれども、何うも實際行つて見るとサウ旨く往きませぬ

それからモウ一つ申しますが錐の上に[illegible]の重い握が附いて居る道具でございます、錐の尖は鋼鐵で其上に普通の鐵の握があつて、さうして上下に動くやうになつて居る、其錐を氷に當てゝストンと握を落すと鐵槌の代になるのです、能く舶來物を賣買して居る店などに行きますと外國から來た大きな箱を開ける器械がありますが、其器械なども矢張り釘拔と鐵槌と一ツに附いて居つて上から其鐵槌のやうなものを落すと丁度釘拔が下がつて、さうして直に釘が拔けるのでございます、それと同じやうに錐と鐵槌と附着いて居ります、デ其器械のございませぬ所では通例錐や鑿などゝ鐵槌とを用ゐます何うも實際使つて見ますと旨く碎けませぬ、一番手際よく碎けるのは矢張り針の太いのでございます、針の太いので碎きますと大概意の如く碎けますし又四方へ散ると云ふやうなこともありませぬ併し鑿錐又は針抔を用ゐますと之に伴ふ鐵槌を捜し歩いたりしますから、氷を早く手に入れても、それを病人に與へるまでに暇が掛りますから急ぐ場合には不自由なものでございますから矢張り今の錐と鐵槌と附いて居る器械を備へて置きますと實際日用の外の用を足すにも宜しい道具でございます

それから氷を碎きまする響──氷を碎きまするのも成べく病室ではやらない方が宜しい隨分病床の傍てゴツ〳〵やるのが響きますと病人は氷を用ゐまする位の重い病氣でありますから甚だ迷惑をする縱令隔たつた臺所のやうな處でも矢張り俎板に載せて板の間でゴツ〳〵叩くと案外に遠い處まで聞えますから、さう云ふ思を病人にさせるのは誠に宜しくございませぬ餘程些細なことでありますが其邊までも注意しなければなりませぬ、それから碎いた氷と云ふものは何う云ふ具合に巧手に碎いても必ず角張つて

居りますが其角張つて居る氷を直に口中に含むのは隨分舌に當つて不愉快なものでございますから大抵細かになつたならばザット水に入れる、水に入れますと其角張つた所は取れて仕舞ひます、さうして直に引上げて置きますると丁度食頃になります、それから氷を病人の枕頭へ持つて來て置くにも唯コップの中にガラ〳〵と入れて置くと直に其氷の一部分が溶けて仕舞つて、折角細かに叮嚀に碎いたものが無駄になります、ソコでそれを防ぎまするには茶漉の笊或は銅網などのやうなものをコップの内部に吊して其中に氷を入れて置くと永持がいたします又さう云ふものが手近にございませぬければフランネルを縛付けて中を窪めると茶漉の代になりまして、溶けたゞけの水は其フランネルの下に漏れて仕舞ひますから丁度食頃になつた氷が始終手近に有ると云ふやうな譯になりますソコで氷を食べるまでの製法は濟んだのでございます

所で今一ッ注意を促がして置きますることとは、一躰氷と云ふものは臭氣を吸ふものでございます惡い臭を吸ひ込みますから平常の室でも氷を碎いた儘で置くと其中に惡い臭を吸込む、況んや病室のやうな多少臭氣のある處へは成べく澤山持つて來ない方が宜しいのでございます、溶けても仕舞ひまするし且つ臭氣を吸込んで味が惡くなりますから矢張り澤山は拵へずに少しづゝ拵へて度々元庫から出して來ると云ふやうに致した方が宜しうございます

今までは氷のお話ですが今度は「アイスクリーム」のお話を致します此アイスクリームは御承知の通りに氷と云ふものが少しも入らないでクリームを氷らせるのでございます此前クリームの所で申上げました通りにアイスクリームのことは後に往つてお話しやうと云ふことにして置きましたが、元來アイスクリームはクリームと云ふもので拵へる方が本筋でありますけれどもクリームと云ふものは乳屋へ行つても、それが有る所もあり無い所もありますから、間に合せに普通の乳でやりまする、それから又他の植

物性の僞製乳でアイスクリームにすることもございます植物性の僞製乳と云ふのは甘扁桃乳と云ふので巴旦杏の仁から拵へた所の乳でございます、ソコで先づ本式に「アイスクリーム」を拵へるには「クリーム」一リットル、砂糖が三百三十五グラム、鷄卵は蛋白も蛋黄も一緒にするならば八個、若し蛋黄ばかり入れるならば十二個乃至十五個、是が「アイスクリーム」の原料でございます、ソコでクリームを火に掛けて能く温めて、さうして其中へ砂糖を溶かして入れる、砂糖は最初に鷄卵の蛋黄の方に溶かして置く方が工合が宜しいやうでございます素より粉砂糖で、其粉砂糖を鷄卵に混ぜて置いて、それから今の温くなつて居る卵に交ぜる尤も甚しく熱くすると生卵が熱卵のやうになると往けませぬから程よく熱い内に鷄卵を溶かして、それから嗜好次第の香氣を附けるのでございます或はレモンを入れるとか或はバナヽなどを入れる人もあります又日本流では茶を入れたりコーヒーや、チヨコレートなどを用ゐますが併し病人に與るのは餘り飾らない方が宜しうございます茶は御承知の通りに碾茶にするのが宜しいけれどもコーヒーは粉にしたのを入れますとザラ〳〵して舌に觸りますから、煎じ出して粕は取つて仕舞ふやうにしてコーヒーの香だけ使はなければ往けませぬ、それでありますから若しコーヒーを煎じるのが面倒ならば能くクリームの中に入れても宜いやうに濃く煎じて置いて、さうして其コーヒーをクリームに混ぜるとチヨット理屈は同じやうなものになりますそれから、是はまだ私は行つて見たことはございませぬが書物にありますが、若しクリームの良いのを得ることが出來ない時分にはバタの良いのを鹽出しをして使ふと、それでクリームの代用になると云ふことがあります成程理屈から申すと其譯でございます、バタは脂肪ヨりあるがクリームの中には御承知の通りに砂糖が自然に入つて居ります然し是は後から砂糖を加へるとが自在に出來るのであるからバタの中の砂糖位は有つても無くつても宜しい、ソ

コて調合の出來たクリームを、冷めない内に、アイスクリームを拵へる器械の中に入れるので、其器械は種々ありますが近頃東京などでは自由に、大小お好次第の器械があります、其器械の中に入れて、さうして急に廻しますと大抵二十分から二十四五分位廻して居りますればアイスクリームになります、之を吾々が慰み半分に自分で拵へるやうな時には、モウ何の位凝つたかと思つて度々蓋を開けて見ますけれども此開けて見ると云ふことは法にないので、二十分なり三十分なりの間は成べく手を止めず同じ速力で廻轉して居なければ往けませぬ自分で拵へるとツイ蓋を開けて見たくなりますが、開けると云ふのは法に背けて居るので能く凝り兼ねるものでございます

それからクリームでなく植物性の乳でアイスクリームを拵へる時分には甘扁桃乳を用ゐる此甘扁桃と云ふものはアルモンドと言つて買ひに行けば、西洋食品の店にありますが其アルモンドを二百五十グラム、それから苦扁桃と云ふ、香ひの好いものがありますが其苦扁桃を六ッか七ッ入れて臼で舂く、臼で舂きますと是は果物の種子であるからベタ〳〵として粘液が出る、粘液が出ますから舂いても粉になりませぬソコで少し水を入れてさうして餘り杵や臼に着かぬ位にして能く舂いて居る併し日本では臼で舂くよりも擂鉢と云ふものがございますから大變斯う云ふものを拵へるには都合が好い、西洋には擂鉢がありませぬから臼で舂くが、日本では丁度胡麻豆腐を拵へると同じやうに、擂鉢で擂ると好い工合に出來ます、ソコで此胡麻でも矢張り白胡麻を擂ると胡麻乳と云ふものが出る、胡麻の油で以て自然に乳汁のやうなものが出ます唯此甘扁桃に致せ、胡麻に致せ、擂鉢で擂つて居たばかりでは乳のやうになりませぬ、水を入れなければ往けませぬ又水を入れると同時に砂糖を入れる、其砂糖の分量は百七十乃至二百グラムほど入れて、さうして今の擂鉢で擂ると、其内に水と能く混つて乳のやうになります其分量は

一リツトル即ち五合五勺ばかりの乳が出來るやうにするさうして、之を布で漉しまして清淨に出來上りますと格別惡い臭がしませぬ、けれども若し鼻の鋭い病人で、是は何か臭がして厭だと言つて飲んで呉れないことがありますと、さう云ふ場合には香付けにレモンでも何でも入れて、さうして乳の儘で飲んでも宜しい、又アイスクリームの器械へ入れて凝らして本式のアイスクリームの樣に爲し或は胡麻乳のアイスクリームを拵へて病人に食べさせても宜しうございます是は牛乳のやうな滋養にはなりませぬけれども併し腹瀉や何かの時分にはドウも水が飲みたい、其時分には尋常の水では往けませぬから矢張り斯う云ふものを與える方が至極宜しいのでございます、是で先づ冷たいものは終つたが是から温かい方に移ります

水は冷たくなければ味も惡し又渴きを止める効もございませぬが併し之を湯に仕立てゝ白湯で飲みますると、十分熱ければ宜いが、生温い白湯と云ふものは味も好くなければ又變な臭がして强ひて飲みますると吐氣を催して參ります併し又此吐氣を催して來るほどに、不味い白湯を病人のために用ゐて宜い場合があります、それは如何云ふものかと申しますと御酒を飲過ぎました時などに、是は寧そ吐いて仕舞つて早く醉を醒さふと云ふ場合には、常に不味いものだと知れて居る所の白湯を飲むと宜しい、それで吐氣を催すばかりでなく、胃の中に溜つた物を其湯と一緒に吐いて仕舞つて胃中を一と掃除する爲めにもなります、食べた物などが固まつて居るとなかなか吐くにも骨が折れますけれども、湯で食物が軟かくなつて且つ分量が餘計になつて居ると、胃の中の物を搾出すのが容易に往きます、夫故に此の如き場合には其胸の惡くなるやうな白湯が藥の代用になります、それから過つて何か毒な物を飲んだ時に之はどうしても素人療治で吐かせた方が宜いと云ふやうな場合にも、矢張り白湯を飲む方が宜しいのでございます第一に湯で以て其毒が稀くなりますから毒の

力が弱くなり第二には吐氣を催すから湯と云ふものは中々馬鹿にならない、それから日本では是まで丸藥などを服みます時には必ず白湯で服む、茶では服まない習慣になつて居りますが是は至極宜しい習慣でございます其白湯で服みますには餘り熱くないので服むと云ふことは宜しいこととてあるから是は何處までも維持して居つて宜しい、併し西洋では先づ客が來ても、酒は出すけれども湯や茶は直に出さないと云ふ習慣で、臺所には食事時でなければ火の氣が絶えて居るやうな習慣でございますから、それで湯と云ふものが手近にない、それ程不便であつても病人のある時には急に湯を沸かして矢張り湯を用ゐるなければならない場合がありますから湯沸しの器械は日本よりも進歩して居ります、日本では年中火鉢に鐵瓶を懸けて湯を沸して置いてそれを樂にして居りますから不經濟ではあるけれども病人などの時には大變都合が宜しい西洋には、それが無い代りに早く湯を沸かす器械が必ず看病道具に附いて居ります、早く湯を沸かすには成べく火力を強く致さなければなりませぬから、或は瓦斯凉爐を使つて居りますと瓦斯凉爐の中に別段に空氣などを吹込むやうな仕掛になつて居るのもあり、又アルコホル、ランプであるときはアルコホルの焔と其蒸氣と一緒になつて、それて瓦斯のやうな火になつて火力を上ぼせるのもあり、石油ランプを使ふときは油壺の上に空氣ポンプが附いて居つて空氣を搔込んで石油燈火の火力の強いのを拵へて湯沸に使ふこともございます、一方に於ては又湯沸の方を工夫して――火力の方を強くするばかりでなく矢張り早沸しの藥鑵など〻云ふものを工夫いたします、日本でも何處かで眞似をした人があつたかと思ひますが、それはブリッキのやうなもので以て其藥鑵の內に斜に底が這入つて居る底が圓いと一杯に水が入るが斜になつて居つて在ると水が半分しか入らないからドウしても湯の沸きやうが早い、而も斜になつて居て水が薄く層なつて居る處へ火力の強いのが觸れるから忽ちの間に湯がグヲ

〳〵煮沸るてございます、さう云ふ具合に藥罐の方でも又爐の方でも工夫して、病人などのために急に湯を要する時には、何んなにても早く拵へることの出來るやうになつて居ります、日本では、そんなことを致しませぬでも大抵どの家でも、客が來て困らぬ位に湯が沸いて居ります、

偖何う云ふことに白湯を用ゐるかと申しますと先づ通例咳の出ます時に頻りにコン〳〵込上げて來て止まらないと云ふやうな時分に、白湯を一口飲むと咳が鎭まります、それから老人或は病人などが身躰が衰へて來て食物が胸に支へることがある、其時分には白湯を一杯飲むと直ちに其食物が下ります、それから咳逆が出る時にも矢張り白湯を飲むと忽ち鎭まります、又動悸の高まつて來た時にも湯を飲むと全然鎭まつて來ることがございます、ソコで一つ申して置きますが若し咳が出るやうな時分には尋常の白湯よりは、砂糖湯にして飲みますと咳が能く止ります、それから腹の痛い時にも矢張り砂糖湯を飲むと鎭まつて仕舞ふことがございます、誠に詰らぬやうなもので、割合に手近にあり過ぎますから、人がそれだけの効能を知らないが、チョット手療治に、病人の難儀を鎭めるには、誠に毒にならないで効能が多くございます、日本には昔時曲直瀨道三と云ふ有名な醫者がありまして其道三と云ふ醫者の工夫で道三湯と云ふものがあります是は味噌汁を薄めたやうなものであつて大層病人が飲んで滋養になると云ふことで此道三湯と云ふものは病人が好んで飲んで居つたが之は決して捨てたものではあるまいと思ひます即ち西洋で稱美する豆のソップのやうなものであるから理屈上から申しても宜しいものだらうと思ひます

次は茶でございます茶と云ふものは日本では日常飲べて居るものでありますから、之も藥とは人が氣が着かずに居りますけれども段々外國でも試驗をしたり或はベルツ君などは永く日本に來て居つたが、此日本の普通のお茶は藥として用ゐれば小便の通じを

取り、汗を取るのに至極宜しいと言つて居る能く世間では風邪を感いた人が汗を取るために、何か泡劑と云ふやうなものを藥店から買つて來て服みまして其ために癒ると云ふと全然藥が利いたやうに思ふ、けれども實際それは藥に特効があつたのではない、唯熱い物を服んだと云ふことが利いたのでありますから、さう云ふ場合には日々飲んで居る所のお茶を熱く煎じて飲んでも理屈は同じでございます、それから小便の遠い人などにはお茶を飲ませる、併し側から之を輕蔑す人に言はせますると、茶を澤山飲めば小便の餘計に出るのは當然だなどゝ言ふが「ベルツ」君などは其迷を解くのに大きに骨を折つたやうであります、けれども茶を澤山飲ませれば小便が餘計出るのは、此茶と云ふものに、それだけ通じを促がす効能があるのであつて、其飲みやうが多量だから餘計尿が出ると云ふ譯のものではないと云ふことが證明されて在るので私もそれを信じて居ります、それから此平日飲んで居る茶の効能と云ふものは、

氣が鬱した時分に、お茶の良いのを飲みますと心持が爽快として睡氣の催したのも目が覺めるやうになりますが、併し飲んで直に利目のある位な良いお茶は却つて浮かされて眠ることも出來ないと云ふやうな害も來しますから、漫りに餘り良い茶は使はない方が宜しい、隨つて良い茶は煎茶にしても宜しくありませぬ薄茶濃茶など云ふものは決して病人に飲ませない方が宜しいのでございます、然らば何う云ふお茶が宜いのとか申すに、矢張り番茶が一番宜しい、それから又良いお茶が病氣に利くこともございます御婦人方にある病氣で片頭痛がする時分に、良いお茶を飲みますと痛みが輕くなつて來るとがございます、けれども若しそんなことを遣つて見やうと思ふならば、能く醫者に相談をして其許しを得てからやる方が宜しうございます併し健康な人は、そんなことを致して睡眠を妨げられても格別恐るゝに足りませぬが病人は成べく眠らせて紛らして置く方が宜しいのに若し、そんなことを致して睡眠を妨げるやう

なことがあつても徃けませぬから却つて惡いお茶の方が宜しいやうでございます、それから澁茶の方でありますが、下痢のあります時分には澁い物は幾らか下痢を止める働がありますから番茶を煎じて置いて澁茶にして飲むと至極宜しいのでございます、今日西洋流に行はれて居る紅茶は日本の番茶と理屈は同じことでございます

其次きは珈琲である珈琲は日本の物でありませぬから詳しいお話いたしませぬが併し今では東京の如き處では殆ど日本固有の飲料と云ふ位に廣く行はれて居て誰の家にもありますから一言申して置きますが、珈琲と云ふものは西洋では餘り病人に勸めませぬ、何故かと申すに是は幾分か胃腸を刺激いたしますからして、腸胃に病氣のある人には宜しくないと云ふことになつて居ります併ながら珈琲は氣付藥として用ゐて居ります此氣付藥として用ゐまする時には、普通飲用の珈琲から見ると餘程濃く煎しなければ徃けませぬ、珈琲の粉を澤山にして至極濃く煎じたものでなければ効能が少ない併し珈琲を飲む時分には大概砂糖が入つて居り、それから又牛乳も入つて居る、さうして其砂糖も牛乳も二つながら滋養物でありまして乳の臭氣を消すにも宜し又永い間の病人は色々の物を食べて見たいものもありませうし又種々の方法に依つて身體を養はなければなりませぬから、此砂糖や牛乳の入つて居る所の成べく薄い珈琲を飲ませると云ふことは妨にはなりませぬ、幾分か滋養になります、それで畢竟茶と云ふものも珈琲と云ふものも、之を藥にして使ふと云ふほどの場合は餘り少ないのでございますが若し茶や珈琲を藥にして使ひたいと云ふ場合には、醫者の方に、珈琲から製法した藥がございますから、それを醫者に貰つて飲べる方が宜しい、唯手療治の茶や珈琲で病氣を癒さうと云ふことは難かしいことでございます

それからチヨコレートと云ふものは市中でチヨコレートとして賣つて居るのもあり又チヨコレートに拵へないで其前の「コヽア」を粉にした計りのもあ

り、兩方市中に賣つて居りますが何方も病人の食物と云ふことになつて居ります併し之を病人に與へる時の精神は、茶や珈琲を飲ませるのとは違つて、其チヨコレートの中にある乳だの砂糖だのと云ふやうな、滋養になる物を食べさせる爲めに用ゐるのでございますが、是は日本では餘り廣くも行はれて居ないものでございますからして、格別此事に就いて永くお話をしないでも宜しいが此物の中には澱粉が入つて居つて、砂糖、脂肪、蛋白など種々なものが混つてチヨコレートになつて居るのでございますから、重病から快復しかゝつて居る病人とか又は小兒などに用ゐて至極滋養になるものでございます今日は酒のことも申さうと思つて居りましたがモウ佐藤さんが見えましたのに、是から御酒が出る後引になつては惡うございますから玆で御免を被ります

●箴言

いにしへ、もろこしに、鼻祖の言あり。食養によりて、百病を治すと云ふ。今とても、食養なくんばあらず殊に、老人に胖胃よわし。尤食養宜しかるべし。薬を用ふるは、やむ事を得ざる時の事なり

ペスト病談

醫學博士　中濱東一郎

佃速記事務所員　速記

本病談は中濱博士の麹町衛生會の席上に於て演説せられたるものなるが本會先生に請ふて其承諾を得たるものなり

皆さんも既に御承知の通り、昨年二月の末に東京市内にも遂に「ペスト」患者を發しました、是まで近い所には度々「ペスト」を發生し、昨年の九月の末には横濱に此患者を發生いたしました、併ながら幸ひに十二月までは東京市に侵入いたしませぬであつたにも拘はらず、遂に此頃流行を來しましたのは誠に遺憾の次第でございます、デ御承知の通り此流行は本所區押上町にある瓦斯紡績會社に發したのでありまして、今日まで患者の數は眞症が十一名、疑似患者が三名、都合十四人ありまして、其中死んだ者が九名あります、それて一人を除くの外は皆此會社

の女工であります、其會社外の一人と云ふは既に皆さんも御承知の通りあの病院の醫長をして居られた横田と云ふ醫學士であります、此人も不幸にして鬼籍に上りました、此横田醫學士を除くの外は皆女工であります、或る新聞には男子が發病したと云ふ事が記してありましたが、一時疑似として取扱つたことはあるけれども、皆全快して眞症の「ペスト」にはならずして終つたのであります、デどうして此病氣が本所のある會社に起つたか、斯う云ふ事を取調べるのは豫防の上に大層肝要のことであります、併し斯う云ふ話は甚だ面白くなく隨分御退屈であらうと思ひますが、是からあとで皆さんの面白いお話もありますから、暫く御辛抱を願ひたうございます

デ私はどうして彼處に此病氣が發したかと云ふことを取調べましたから、少しく其事を御話申さうと思ひます

あの會社には職工が三千人以上ありまして、二千人程が寄宿して居ります、即ち工場の内に眠食して居る、是は悉く女であります、それから外から通勤する者が凡そ千人程ありまして、其半分程は男の職工、半分程が女工であります、それで今度發生したのは悉く寄宿して居る所の女工のみであります、さて始めて「ペスト」の報告のありましたのは十二月の二十五日と思ひます、十二月二十五日に始めて眞症の「ペスト」が發したと云ふことの確報があつた、けれども此會社にては其前に急性の病氣に罹ッて死んだ女工が三人あります、是も矢張り寄宿舍内に居つた所の女工であつて「ペスト」發生したりと云ふ報告ありし二三日前に急性病を以て死にました、あとて調べて見ると此三人も矢張り眞症の「ペスト」であらう、「ペスト」と認めなければならない容躰があつたと云ふ、これ故に表向きの報告が出てました以前既に「ペスト」患者があの會社に發したのであります、此紡績會社は即ち綿を取扱ふ所でありまして、其綿は何處から來るかと云ふと、無論内地産の物でなく、外國から輸入した所の綿を取扱ふのであります、此

綿を取扱ふのは寄宿して居る女工も亦通勤する所の女工男工等も、皆同じ様に綿を取扱ひ綿に密接する者であります、然るに其綿に密接した所の女工の中からして、此病氣が出來たと云ふことを以て考へますると、綿に病毒が有るやうにも認められます、さうして其綿を取扱つた女工にそれが感染したのであらうと云ふことは、誰れでも一寸左様に考ふるでありませう、けれども茲に一つ考へねばならないのは、何故女工にばかり發した、五百人も男の職工があつて同じやうに綿の取扱に從事して居るにも拘はらず、其男には發しないで何故女工ばかりに發したのであるか、又何故通勤する女工に少しも發しないで、寄宿舍に居る女工にのみ此病氣が發したか、是は餘程考へなければならぬ事であります、若も綿に毒がおつたとすれば、通勤する者も寄宿舍に居る者も同じやうに病毒に觸れると認めなければならぬから、**矢張り通勤者の中にも患者が出さうなものでありま**すがそれで無い、斯うして見ると綿に病毒があつたと云ふことになります、それから然らば此綿は何處から來たのであるか、斯う云ふ事も取調べて見なければなりませぬ、一昨日内務省で中央衛生會議がございまして、私も其處へ出頭いたしました、其序で野田技師が此事を取調べ報告をなされましたから、其事を御話しやうと思ひます

あの會社に參りました綿は、十月の初旬から十二月の中旬までは支那産の綿でございます、其中の二百有餘俵の綿は横濱の松下とか申しまする回漕問屋の手を經て受入れたのであります、そこで横濱の松下と云ふ回漕問屋はどう云ふものかと云ふと、横濱にペストを發しました時に關係が有つたのであります、此回漕問屋の取扱ひました綿をば、横濱の海岸通りの倉庫の中に納めた、デ其納めたる倉庫の内からしてペスト菌を有つて居りまする所の斃鼠を發見**したことがあります、これは前の話であります、ま**た其ペスト菌を有つて居ります斃鼠を發見した倉庫

の側に居ります人に始めて横濱のペスト患者を發したのであります、それが昨年九月の下旬である、丁度其回漕問屋の取扱ひました綿が此瓦斯紡績會社に來たのであります、尚ほ野田氏が詳しく調査した所に依ると、成程其回漕問屋が取扱つたには違ひないけれども、重なものは蒸氣船からして直ちに艀へ乘せて、さうして東京へ輸送したのである、一旦横濱の倉庫へ積入れてそれから更に東京へ送り出したのではないと云ふことが分つた、然るに尚ほ段々に調べて見ると矢張り關係の有つた事が分つたのである、其斃鼠を出しました横濱の倉庫の中に藏つてあつた綿は、直接に瓦斯紡績會社へ送つたのではありませぬ、けれども一たび靜岡縣の富士紡績會社へ送つたのであります、これから富士紡績會社からして、どう云ふ都合でありましたか更に本所の瓦斯紡績會社へ送つたと云ふことが分つた、さうすると矢張り斃鼠を出しました所の倉庫をば一旦通つた綿である、さうして見ると事に依つたら横濱のペストと同し關係で病毒を東京へ輸入したかと思ふ、併し能く考へて見ますると、若し綿に病毒があつたとしますれば、先程申した通り寄宿の職工なり通勤の職工なり一樣に罹らなければならぬ、

野田氏の説も必しも綿ばかりでなく、他のものから病毒を輸入したかも知れぬと云はれました併し綿には關係の無いてはない私の考へには恐らくは綿と共に病鼠が東京へ侵入いたして、それが本となつて他の鼠に病毒を傳へ其病鼠からして女工に病氣が傳はつたのであらうと思ふ、寄宿舍内には二千人の女工が寄宿して居りますから、多數の人間が小さな所に居ると認めなければなりませぬ、そして此家の内に鼠の「ペスト」が流行したものと見て宜しからうと思ひますさすれば寄宿女工にのみ此病を發したる理由も明かになります一説には寄宿舍の戸棚若くは女工の布團の中に斃鼠が居つたこともありましたと云ふ、さうすると直接に綿から感染したのでなくして、病鼠から病氣に罹つたものと認めなければならぬ、

殊に富士紡績會社はどうであるかと云ふと、今日まて其危險な綿をば持つて居つた富士紡績會社には、まだ一人の病人も發したこともなければ、今日に至るまでまだ一回も有菌鼷鼠を見出したことがない、富士紡績會社內でも鼷鼠は發見いたしましたけれども之を調査して見るに、ペスト菌を有つて居る所の鼷鼠は居らなかつたさうであります、

明治三十二年の終りには御承知の通り始めて神戶に「ペスト」を發しました、其時に私も行つて調べましたが、始めて此病氣に罹つた者は滊船の塵芥を取扱ふ人夫てあります、此塵芥中には積荷の種類により古綿もあり米も大豆もある、石炭の粉もあれば灰もある、斯う云ふやうな塵芥をば滊船からして小船を以て受取つて來て、之をば燒く物は燒き、少しても金になるものは之を販賣します神戶にて初めて「ペスト」を發しましたのは此塵芥抔を取扱ふ人夫二人にて遂に死亡しましたがそれが本となつて段々に擴がりました、三十二年から三十三年に涉る大坂の「ペスト」はどうかと云ふに、矢張り綿に關係することは殆ど無かつた、流行の半途に至つて金巾紡績會社と云ふ綿を取扱ふ會社に發しましたけれども、是も流行中のことにて決して初發したのではなかつた、和歌山縣の湯淺町と云ふ所に「ペスト」患者を發したこともあります、是は海濱に臨んだ所の市街でありまして、少しも綿に關係したものに發生しませんだつた患者の重なものは漁夫車夫商人等にて綿に關係したものは一人もなかつた、濱松にも「ペスト」患者が出たことがあります、是は患者の數が十七人出たと覺えて居ります、併し是も悉く綿に關係の無いもののみでした

アさう云ふ次第でありますから、「ペスト」病毒が輸入傳播いたすのは、種々の方法に依るものと認めなければ、ならぬ決して綿ばかりでなく、總て外界から輸入する所の雜貨も亦危險と思はなければならぬ、就中危險なのは雜貨の間に潜んで居ります「ペスト」に罹つた鼠であります、是が荷物と共に動も

すると小船にも乗移り、陸揚げをする時は荷物より先に鼠の方が倉庫内へ飛込んで來る、一説には襤褸からして病氣を傳へたものであらうと云ふ者がありますが、併し今日では外國から襤褸の輸入をすることが禁じてあります、これ故に外國からして、殊に「ペスト」の流行地からして襤褸が内地へ輸入すると云ふことは先づ無いと認めて宜しいのであります、以上は「ペスト」病毒の傳來に付ての私の意見にて綿にのみ原因を歸するの無稽な次第を申し述べたのでござります斯ふ云ふ次第でありますから我々は豫防の上に付て最も鼠の驅除、鼷鼠或は病鼠をば發見することに注意しなければなりませぬ、

それで鼠が「ペスト」に罹りますると妙なもので、鼠は人を怖れるのが通常の性質であるのに、「ペスト」に罹ると人間を怖れなくなる、ヒヨロ〳〵其邊へ歩いて出て來る、平生は日中大抵穴に引込んで居るけれども、此病に罹ると云ふと日中そこらへ出て來る、さう云ふやうな怪しい鼠があつた時には、餘程警戒を加へなければならぬ、怪しいと思つたら早く其鼠を捕へて、さうして其筋へ持つて行つて試驗をして貰ふのが一番安全である、東京市役所内には衛生試驗所が出來て居り警視廳にも相應の機關が出來て居つて皆孰れも病鼠の檢査を致しますから、さう云ふ病鼠鼷鼠などがあつた場合には、早く警察官へ告げて試驗をして貰ふ、さうして若もペスト菌を其鼷鼠或は病鼠から發見したならば早く消毒をして貰ふより外に安全な豫防法は無いのであります、そこで此病氣は一旦鼠に發した以上は、鼠は諸所に潜んで居り、或は家より家に移り易いものでありますから此病は鼠の種族の中に速に傳播いたします、大抵人間に病氣を發する前に鼠に病氣を發する、それ故に成るべく鼠を驅除すると云ふことに力を注がなければなりませぬ、決して鼠は一時驅除したと云つても直に繁殖するものでありますから、安心する譯にはいきませぬ、絶えず怠らず始終鼠の驅除に力を盡さなければならぬ、是まで日本では鼠の驅除に力を盡し

ませぬてありましたが、マルて「ペスト」に關係の無い外國ては規則立つて鼠を驅除して居る所の國があります、是は作物を害する爲てもあり、或は又種々な道具を損ふ所の害もありまするので規則立つて鼠を驅除する國がある、それは他は知りませぬが、獨逸のザクセンと云ふ王國てあります、ザクセン王國のドレスデンと云ふ市ては四十年以來滿二年毎に一遍づゝ大擧して鼠族を驅除して居ります、是は餘程面白い話てあります、是までは餘り人が注意しなかつたが、「ペスト」がやかましくなつてから人が注意するやうになつた、二年毎に大擧して鼠を驅除して、四十年以來やつて居ります、是まて凡そ二十遍やつたさうで、二年毎に一遍てすから四十年の間に二十遍やつた譯になる、それが爲に鼠が甚だ少ない、全く無くなりはしませぬけれども、鼠の害を被ることが他より至つて少ないさうてあります、今日も尚ほ其方法を繼續して居ります、「ペスト」の害を被らぬドレスデンてすら斯の如くてありますから、東京のやうな土地、横濱のやうな土地ては、敢てドレスデンを眞似るには及びませぬが、毎年一遍位は大擧して鼠を退治た方が宜からう、日本には種々なる流行病もありまして傳染病が始めて流行する時には、皆人が注意いたしまして豫防も怠りませぬけれども、少しく耳に馴れ屢々之を目擊して居ると、何時か其恐怖心が減つて來て、何時の間にやら豫防法も怠るやうなことになります、今日こそ鼠の驅除に付て大騷ぎをして居りますが、毎年「ペスト」患者が續いて發生するやうになりましたならば、終ひには鼠の驅除どころてはなく他の「ペスト」の豫防までも無頓着にならぬとも言へませぬ、投げやりに致して置きましてペストが蔓延いたしませぬければ幸ひてありますが、何と云つても猛烈な病氣てありますから、どんな大流行を來さぬとも言へぬ、又幸ひに大流行を來さぬても、歐米各國の開化した國民は非常に此病氣を恐れる、若しもペストが年々少しづゝても日本の內地に出沒すると云ふとになつたならば、

殆ど交易は中絶して仕舞ひませう、生糸を購入する者もなければ、ハンケチの輸出も止りませう、外國人が日本へ漫遊する者も見合せるに違ひない、今年の博覧會なども政府も人民も骨を折つて居りますが、外國より見に來る者も全く無くなつて仕舞ふ、經濟の上に付ては非常な損耗を被り日本は非常に貧乏になる、今日では隨分金が無くて困ると云つて居りますが、僅か少しばかりのペストの爲に、吾日本國は貧國の部類へ下つて仕舞ふ、樣では實に容易ならん次第でありますそれ故に「ペスト」の豫防と云ふものは、吾々の衞生上人間の命を保護するばかりでなく、國の富を完ふすると云ふ上から見ても最も大切な事であります、それ故にどうぞ鼠を驅除すると云ふことは少しも、怠らず繼續してやつて戴きたいのであります、

それからモウ一つ述べたいのは、患者を發しましたる家、若くは有菌斃鼠を見出しましたる所の家の消毒の事であります、隨分今むづかしい問題になつて居りまして、新聞に由りましては何故瓦斯紡績會社の建物を燒棄てないのであらう、甚だ緩慢な仕方である、神戸の「ペスト」の時も家を燒いたではないか、現に昨年横濱でも家を燒いたではないか、家を燒いた爲に大なる流行を見ずに仕舞つたから、東京でも早くあの建物を燒いて仕舞つたが宜からうと云ふ人もあります、成程此燒棄てると云ふことは誠に良い方法であります、吾々も毎日消毒に付ては燒棄てる方針を取つて消毒して居るものもあります、けれども又少しも燒棄てないで十分に消毒の出來るものもある、例へば外科醫者が治療する時には、燒棄てなければ消毒が出來ないと云つた以上は、人間を燒棄てなければ療治が出來ないと云ふことになる、器械も燒棄てなければ消毒が出來ないと云ふと、外科的の治療は出來なくなる、例へば腹を切る、昨日も私の病院で桂醫學士が腹を切つた患者がありました、治療の爲に腹を切つた時に、若しも燒棄てなければ消毒が出來ないと云ふと、病人を燒棄てゝ仕舞

はなければならぬ、そんな事は出來る筈はない、それ故に燒棄てなくも或る方法を以て消毒を致しますれば、藥劑の力を以ても、又蒸氣の力を以ても消毒の出來ないことはない、紡績會社の如きも燒棄てなくとも、十分に注意いたして藥液等にて消毒を施す時には、安心するまでに消毒の出來ないと云ふことはありませぬ、尤も十分に消毒するには中々費用が掛る、消毒の爲に手數と其費用とをば抛つても、必要であれば藥劑を以て消毒することが出來ます、併し家の造り方に依りましては、藥劑を以て消毒の出來ないものも中にはある、さう云ふものは已むことを得ず燒棄てなければならぬかも知れぬ、又汚い物置とか小屋のやうなもの、さう云ふ建物を消毒するには、小屋を建てるよりは餘計消毒の爲に費用を要することがある、斯の如き塲合には燒いて仕舞つた方が宜い、ですから「ペスト」患者を發した以上は其家を必ず燒いて仕舞ふと云ふのも極端てあります、又ペスト患者を發しても燒くに及ばぬ、藥の力で消毒が出來るから決して燒くに及ばぬと云ふのも極端てあります、兩方無理なことてある、或る塲合には燒棄てなければならぬ時もありませうし、或る塲合には燒棄てないても、藥力を以て十分に消毒の出來るものもあります、それは皆其家に付て取り調べて見て、さうしてドチラかに極めなければならぬ、私は右の通りの意見を抱いて居ります、綿の消毒はどうかと云ふと、是は又無論消毒しなければならぬ、あの會社の家も消毒しなければならず、それから女工の衣服までも消毒するからして、其處にある綿、殊に疑はしい倉庫の中にあつたと云ふ綿てありますから、無論綿も十分に消毒しなければならぬ、直接綿に毒が無いとした所が、消毒しないても宜いと云ふのてはなく、無論會社内にあつた所の物品なり、其他の物の消毒は必要てあるからして、綿の消毒も無論必要の事てあります

デ是が今日問題になつて居ります家屋消毒に付ての意見てありますが、幸ひに此頃眞性患者もいそ出な

くなつたやうであります、けれども鼬鼠は會社限近にまでも及んで、屢々病菌を有つて居ります鼠が出るさうでありますから、患者のあると同じやうに十分に警戒を加へて、吾々は何處までも此東京市をば清淨無垢の全くペストの無い地に致したいと考へます、どうか皆さんは御申合せになりまして、鼠の驅除、それからして疑はしい患者が万一あつた時には早く醫者に診察をして貰ひ、相當の手續をして害を他に蔓延させないやうに御注意を希望いたします、誠に詰らない事を申して御退屈でありましたらうが目下大問題になつて、居りますから、一言述べました次第でございます。

●箴言

萬の事、皆、わがちからをはかるべし。ちからの及ばざるをしひて其わざをなせば、氣へりて病生ず。分外をつとむべからず。



看護人の衛生に就て

賛成員　關　善　重　郎

私は之れまで病院或は病家に於きまして看護婦又は看病人の男女を問はず其の患者に接する一般の樣子を見ましたが隨分傳染病に限らず其の他の病毒の爲めには自分の生命をも失ふが如き冒險の場合に立ち至る者がありますが就中看護婦は其れが自分の職業となり又一身をも犧牲に供しまして博く世の患者を救はんとするが如き篤志家もありますが是等の人々は誠に感服の至りでありますと。私は思ひまするに彼の兵士が戰地に出でゝ我が生命をも顧みずして國家の爲めには盡力を致し名譽の戰死を遂ぐるものさへありますが彼の看護婦が赤痢、窒扶斯、結核、梅

毒、實扶的里亞、ペスト、流行性熱病、等の諸傳染病患者に對しまして少しも厭いもせず自由自在に患者の付添となりましたり又は日夜種々の看護法に手を盡すのは彼の兵士が戰地に出でゝ戰爭を致しまして彈丸の爲めに斃れますよりも看護婦が患者の付添を致しまして病毒が感染致しまして斃れますのは尙一層慕ふべき次第でありますと私は思ひます何故かと申しますれば日夜傳染病患者に付添をなし居りまするに由り如何なる病毒が何時感染致しますか又如時病氣を惹起致しまして重症に陷りまして自分の生命をも覺束なしと云ひまする如き場合はないとはありませんてしやう私は時々斯る場合を見受けましたとがありますて看護婦て數名看病人ては十餘名程の多くありました其は東京のみに限らず地方ては隨分多くありますので、昨年八月頃信州地方へ行きました時には或る一家族の内一人始めに赤痢に罹りまして漸次に其の熱心に看病致しました者に及ぼすと云ふ有樣てありましたて餘程險呑てした而して躰力養成の必要なるとに就きましては既に教育社會は勿論一般國民も漸く之れを熟認致しました者の如くてありまして即ち各自に運動をなすとか又は成るべく滋養分ある食物を攝取致しまして躰力の消耗を補ふが如きは常に何人も識らるゝ所て御座いまして目今の所ては日本人の習慣としては食養生を致しますよりも着物や其の他の贅澤物に多大の金錢を費やすが如く歐米人とは即ち反對の狀態があります故に昔は京都の着倒れ江戸の食ひ倒れと云ひましたそうです頃日は日本人は都べて着倒れの傾向がありまして餘り感心致しませんので如何に下等社會の人物てありましても絹衣を着けると云ふ次第てあります私は又題目の如く下にも看護人一班の淸潔上の注意に就きまして簡單に記述致しまして此の會員の御方々へ御照會致す積りて御座ります

さて各病院や其の他の看護婦會などの看護婦は一般患者に接しまするに如何なる法方及び注意を致しまして各患者に就きまして之れが處置をなしまするか

と云ふことに付いての一つの問題てあります私が是れまで見聞致しました所では總て病院等の看護婦養成法及諸規則を見まするに衛生學大意、生理學大意、傳染病豫防法、及消毒法等の科目を見受けましたが各個人は槪ね夫れ丈けの腦力はあります者の樣でありまするけれども其の注意の足らざるを私は甚た遺憾とする所てありますて夫れは例へば外科手術手傳へを致しまして膿血や其の他の腐敗物の手に付きたる者を以つて直ちに食物を食するとか又は其の手を粗漏に洗ふて牛乳パン、菓子等を食したりなど致すとか又は飮食物の器具例へば茶器食箸等を持つとか其の他大小便々器の掃除等を致しましても十分に消毒も致しませんので他の人に接しましたり又は他の室内を出入しましたり着物等へ手を觸るゝ事は甚だ以つて不注意の至りであります神田區の或る有名の病院の看護婦さんは黴菌の顯微鏡の檢査を致しまして後ち其の黴菌を手にて種々致しまして現に附着なし居りまするのに菓子パン等を食しまして平氣て居りましたが隨分險呑の御話で御座います其の外赤痢、結核、實扶的里亞、ペスト、流行性熱病、癩病等の患者に與へましたる飮食器及手拭、夜具、蒲團は殊更別になし置きまして若しも患者が他の病院などへ轉じました時は直ちに其室内の天井板、梁柱、障子等に至るまで一度は拂ひまして拭ひて後ちに石炭酸水、及び昇汞水の適宜に溶解し稀薄致しましたる者を以つて消毒法を施すことは常例の法方なりと知りつゝ何人も等閑に致し勝ちで誠に困ります尤も醫者でありましても粗漏の御醫者さんは何十日も湯にも這入らず剃さへ拭ひも致しませんので診察を受けに來ました病人を診斷致しましても手も洗はず又腫物などを切開致しまして其の跡の繃帶の交換など致しましても手も洗はず消毒も致しませんので字を書きましたり御茶を飮みましたり致しまする御醫者さんを見受けましたが之れ等は隨分粗漏の至りです且つ又吾人が若しや何病に不限病ひに罹りました時に醫家に參りまして診察を受けまする時に自分より先に

不潔なる患者或は傳染病患者を診察致しまして手も洗はず消毒も致しませんので診察を致さるゝは甚だ以て危險千萬なるのみならず又氣持の餘り宜敷ないものです醫者も粗漏の人に罹りまするど病毒であろうが何んであろうが少しも頓着致しませんので誠とに閉口です而して看護婦は徹夜でも致しまして病人の爲めには看護致さねばなりません場合がありまするから隨分自分の身體を病氣に陷し入れるヿがありまするから實際我が生命をも顧みずして盡力を致す位いてありましやう又同じ肺病患者でありましても胃腸病患者でありましても藥瓶及び其栓及び藥袋等は成るべく混同致しませんやうになさい瓶は洗滌致しまする時には栓などの取り換へることのありません樣に又總て器物は各々別々に清潔に洗ひまするヿと及び消毒を致しまする等のヿは尤も必要と私は思ひます然れども看護婦等は同じ肺病患者とか又は同じ胃腸病患者だから藥瓶などは彼れ此れと取換へても同じことだとか又飲食器物などを用ゐましても又同じ器物中の飯を對坐して食しまする等は餘り宜しくありませんと思ひます又產婆などが產時或は產後の處置及び不潔物などの始末をなすが如き場合は尤も注意を願ひたい者です稀れには或る人に依りますと常に不潔物などを取り扱ひまするに馴れましたに由つて何んとも思はない者がありますが誠とに見るに忍びない者であります然しながら能く其割合に色々の病氣に罹りません者です是ればかりは誠とに感服であります其の外記述致したいヿは澤山ありまするけれども餘り長くなりまするから之れで止めて置きませう。

●箴言

養生の志あらん人は、心につれに主あるべし。主あらば、思慮して是非をわきまへ、忿をおさへ、慾をふさぎて、あやまりすくなし。心に主なければ、思慮なくして、忿と慾をこらへず、ほしいまゝにして、あやまり多し。(養生所)



應急所置

醫學士　米山彥郎

●食の支へし時の注意

前回には眼耳鼻などに他物の入りし時の御注意を申し上げましたが、此度は時節柄何所にも御馳走の多い事ですから夫に因みて、食道につきて御話いたしましよう。皆様も御經驗せらるゝ通り、胸につかへるのは空腹の時に結構な御馳走など餘り急ぎてとる爲めに起こるのが多い。之れは咀嚼の不充分な爲めに唾液と混じ方が惡しく從ひて滑りの惡しきのと、一つには不作法に大口にとるからくるのです。そこで食道の一部分に停滯すると、氣管を壓しつくる爲めに窒息せむとする程の苦しみを起こします、特に齒のない老人にてよく咀み碎ることの出來ぬために祝ひの牡丹餅に舌打ち鳴らした結局胸につかへ慮外の不幸を演じ出したといふ例もあります程て、特更老人には危險の事がありがちです。これは獨り食片に限らず、義齒、小供にては玩弄物などを嚥み込むことがありますから平常此等の場合の處置は一通お心得おきを願ひたい。

物の支へる所は食道の中最狹い入口で大概指の屆く位の所ですから、取敢へず口を開かせ齒の間には瓶の栓又は手拭などを挿し入れ指を咬まれぬ樣に用心し、右の拇指と人示指にて撮み出ださるゝがよい。若しも之れが成功しなくとも此際に咽頭の粘膜を指にて刺戟することとなりますから嘔吐を促し其爲めに異物の排出さるゝことがあります。又は拳を固めて兩肩胛骨（肩の兩脊部にある三角形の骨）の間を打つのも宜ろしい　此等が功を奏せぬ場合には早速醫師に其趣きを告げ食道鉗子にて撮み出すか、胃に通して差支のない食片なれば食道消息子と申す護謨管にて胃に押し入れて貰ふ樣にせねばなりませぬ。

●胃中の異物

針、魚骨、楊枝或は錢子など誤つて嚥み下した場合には、嚴重に身体の安靜を守もり、腹部には温罨法を施こし、食物としては薩摩薯、馬鈴薯、パン、豆腐の粕など分量の多くして可成異物を包み共に排出するものを與へらるべし。此際に下痢を用ゐるは嚴禁て反て害を殘こします。



衛生時事

醫學士　久保猪之吉

●コノ雪

何と珍らしい雪ではありませんか。紀元節になッてもまだ消えません。宇都宮の人のいふには「宇都宮ではモー消えましたが、東京ではまだ殘雪が深い。東京は宇都宮より寒いのでしやうか」と。又小田原から參ッた人のいふには「小田原では、少しも降りませんでした」と。雪をみて悦ぶ人もありましやう。

いざさらば雪見に
　　轉ぶところ迄

とか又は

雪似鵞毛飛散亂
人着鶴裳立徘徊

とかいふのは所謂文人墨客のともがらでありましやう。」

又少さい兒供の身にして見れば、或は雪人形を作らうとか、或は雪投げをしやうとか、色々の野心を抱いてをる。ですから、フレフレ大雪小雪！と叫でをる聲がする」

ひるがへッて子を持ッ親の身になッて見れば或は風邪を引くまいか、或は霜燒が出來まいか、或は「アカギレ」が出來まいかと其子を心配してをる。又老人や、病人の身にとッても、此雪が唯面白いどころでは無い。雪につれて寒さが伴ッてをる。肺病の患

者などは、ソッとするてありましやう。」
わたしは今日ソーいふ人達と心持を同じくしそれ等の人々に同情をよせやうとおもふのです。

●雪の日の老人

此雪の積ッたあくる日でした。下谷の金井之恭先生が見えた。年は今年とッて七十一歳との事です、その髪と、その鬚も白い事此雪のやうです。しかも、肉が適當に付いて、身躰の達者な事はおどろいたものです。所がその丈夫なのに任せて、雪見などいふやうな、粋な事がオ好です。ソレを岸田吟香翁に諫められたといふ、おもしろい話があります。それは先生自身がいはれた所です。即ち、その雪のふり出した朝の内です。詩興、勃然と興ッて家に居られ無くなッた。所でおもひ出したのは銀座の舊友吟香翁です。吟香翁はソンナ事は露知らないでをッた。先生に門を叩かれて驚いた。唯驚いた。何の用事があつていらしつたかといふに、用事は無けれど、雪が降ッたから來たといはれた所。吟香翁はサスガ薬舗の主人だけあつて、さして悦ばれない。却ッて先生を諫めていはれるには、齢七旬を越えて、かゝる暴舉を爲さるゝは、甚だよろしく無い。今に此雪は積て、行通絶ゆるに至らうとおもふから。一杯の酒に暖ッて直ぐオ歸りなさいといふ挨拶であッたそうです。果せる哉、先生は家に歸られた後間も無く、馬車は不通となッた。ソレて先生も吟香翁の注意深いのに感ぜられたといふ事です。此話は、老人がたの爲めに大に參考になる事とおもひますから一筆書きとめて世の人にも示すのであります。

●寒氣

火の中へ手を入れたならば火傷をしましやう。火でなくとも酒ても、熱いものを被れば、皮膚が糜れてむける。烈しい時は肉が黒焼になる事がある、それと同じに寒さの爲めにもやけどをします。しかし、寒さの方は火のやうに烈しいものが少い。通常の所では氷が一番冷たい。しかし、空氣の溫度は朝や夜になれば、零度以下に下る。そういふ時は勿論寒い。」

モット烈しいのは、近來、空氣を液躰にする法があります。日外、理科大學でその器械を買ひ込み、空氣水を作ッて公衆に見せた事がありました。かような空氣水のやうなものは、零度以下百度以上のものですから非常にツメタイです。もし手をその中に入れゝば手が凍る。水銀のやうなものが直に凍て固形躰となります。コンナ例外の冷いものは別としても空氣が自然にひえて、それが、身躰に活く時は熱と同じやうに燒けます。それを大抵三通りに分けます」

●凍傷の種類

寒さの爲めに皮膚に變化が起るのを三つに分けるといふのは第一は、極輕いもので、俗にいふ「霜燒」です。之を第一度のものです。昔ても、燒けるといふ字を用ッたのは面白いです。火て燒けろのと理屈は少しも變らない。第二のは第一よりも烈しくも、たゞれて皮のむけるのてす。勿論、第一と第二は同じ所に一所に出來る事がある。一方ては赤くはせて、一方ては皮はむけてたゞれて居るといふ有樣なのがそれです。第三のは、固くふくれ上ッて薄皮の中には血の混じッた水が澤山溜り、遂に惡いものがくづれて血の中へ這入る。ソーなるとおそろしい毒が身躰に廻ッて死ぬ。コレが專門の詞で膿毒症とか、敗血症とかいふものです。

●凍死

寒さが餘り烈しく活けば第三の凍傷となッて死ぬのです。諸孃はまだ覺えておゐでになりましやう。先年青森縣下の八甲田山中で雪の中を兵卒が行軍をやッた所が、積雪何丈といふ中に埋められて澤山の人か死にました。此死ぬに就いては色々と理由かありましやうが、身躰に第三度の凍傷をやる所が出來、それからわるいものが血の中に這入るのです。ソーなると寒いのもこわい。東京の方は凍ッて死ぬ等いふ事は夢にもおもはれない。雪は珍らしい面白いもの位でをりますが、寒國ては、雪がこわい。吹雪の中へ埋められて凍え死する事はよくあります。

●凍えた時の心得

手なり足なり、こゞえた所を急に火て暖めるのはよくない。可成血の通ひがよくなるやうにしてやらなければならない。日本てはよく昔から藁灰を焼いて暖めるとか又は綿て包むとか色々しました。若、雪の中て凍えたならば雪を取ッて、それて、身体を摩り、凍えた所の血の通をよくする。お仕舞が血の通ひが悪くなれば、そこは腐て落ちる、此前日清戦争て冬の間支那に居た人の話を聞いても指が腐ッて落ちたり、鼻のさきが取れたりした事があるといふ話てす。そーいふのをすてゝおくと、その毒が指の先から身体中に廻ッてくる恐れがあるから、はやく手術を施して切りはなすがよいといふ説がある、又人によつては腐ッて落ちるのが確かになる迄待ッがよいといふ説もあります。

●霜焼け

子供の耳や頬や鼻や、又は手足の甲や指やをご覧なさい。真赤になッてはぜて、固くなり少しく日がてれば、かゆくて堪らない。かくと皮がむけて血が流れ、いたくなる。中には第二度の凍傷が加ッてたゞれて居る。コーいふのは、今頃寒い時節に来る霜焼けてす。子供の中はよく出来るもので私などは今ても五六歳時代の霜焼の創が残ッて居る。此霜焼は、寒い所に長く居れば出来る。又人によッては、ソー寒くない秋の時節にかゝる事がある。甚だしいのは夏、霜焼にかゝる人もある。夏の霜焼といふのは、をかしいが、身体の極弱い、血の環りのわるい人が少し空気の温度に差の出来た時霜焼けになる。

●足の霜焼

小趾か薬趾(第四目の趾)又は大趾はよく霜焼になる殊に日本人には多い。西洋室の「ストーブ」の暖い所か、又は炬燵の中などに這入ッて暖ると、暖つてかゆくなり、少し痛む。針でもさしたように痛がゆい。そーいふ所は赤くなッて張れて固い。それはドーいふ譯て出来るかといふに足はチットしてをる上に包みかたが少ない、日本て申せば、ウスイ足袋一枚てしやう。又靴をはく人が日本室に上る爲めに靴

をぬぐ、しかるに靴下の薄いのをはいてをるか。孔があいてをるやうな場合には足の指が冷えやすい。日本流に座ッて計りをればまだしもよいが、偶に西洋流に椅子へ腰かけるやうな事が出來るとすぐ冷えて、霜やけが出來る。ですから、私は靴で日本流の家を訪ふ時は必ず羅紗の足袋を持參します。假令霜燒にならない迄も風邪を引くか鼻をわるくする。此は靴を御用ゐになる方にオ勸めしたいとおもふのです。

●霜燒の豫防

霜燒にかゝらないやうにするには、第一身躰から丈夫にしてかゝらなければならない。身躰の弱い人、殊に貧血て、血のまはりのわるい人がかゝるのですから、十分滋養分をたべて運動するやうにする。その上急に身躰の冷えないやうにするのが大切です。前申した通り、足は包みて寒氣にさらさず、手には暖かな手袋をする。小兒などは、帽子襟巻て頭から耳迄包むやうにせなければ、寒い所へ出さないやうにすれば大抵霜燒にかゝらない。前に一寸忘れましたが、靴の固いのや、足袋の窮屈なものは、やめなければならない。固く締めると血の通ひがわるくなッて霜燒になりやすい。



質疑欄

●質問注意●質問中診察せざれば應答し難きものは答解の限りにあらず又答解に遲速あるは登載順に都合ある爲めと御承知を乞ふ●質問は端書にても封書にてもよろしけれど單に質問のみをわかりよく認むる事●質問に姓名を出すことを好まさる方は匿名にても差支なし●本號の雜誌に登載する分は凡前月十五日迄に申込まれしものとす

▲尙御質問の際は男女の性、年齡及簡單の經過御記入ありたし

質問者　高崎支會　十九歲女

▲問　妾事昨年八月上旬より神經性心悸亢進にて心悸烈しく尙時々劇烈の事有之候右は別に差支

無之候や療法御敎示願上候尤も二三名の醫師に診察を受け居候へども未だ驗無之右藥品共御明示被下度候

答解者　醫學士　米山彥郎

●答　神經性の心悸と申すと。時々發作性に起こり、其時には心臟の搏動は頻數となり、胸壁を持ち上げ、脈の不整を起こし、何となく不快の感覺となつて、胸迫まり呼吸に困しむ樣になり、又眩暈を覺へるとかあるのです。

さて此病氣は如何いふ時分に來るかと申すと。種々の貧血症、精神を過勞したる爲めに起こる神經衰弱症の時、或は餘り身持の惡しき時、婦人なれば子宮疾患、歇私的里と申す病氣の時などに起こり、其外バセドー氏病と申す病氣の時に主なる症候として來るのです。かく色々の源因でくるものであるから放置されておくのは甚たよろしくない。

療法としては、勢ひ其源因によりて異なる理てあるから、こゝて一々御答へ申すことは出來ませぬか、要するに良醫に一任せられ其源因治療をなさるとか必要てす

質問者　臺灣新入會員の一人

▲問　私事夏冬共に顏に小さき腫物いたし別に膿も有たず四五日にして治し又新らしくと申すよう額口の邊に多く出來候素人の申すには身躰の勢のよきためなりと如何の譯に御座候か治するには如何なる藥にて宜敷候や又一般皮膚に白粉は有害と承り候へ共キレー水とか種々の化粧水などを右の顏へ塗りて無効有害の物に候や又無害有効に候や御敎示願上候

●答　小さき腫物とのみにては要領を得ませぬが。恐らくは顏部の皮膚に澤山にある脂肪腺の排泄口が塞がり分泌物か蓄積した爲めに出來たものゝ樣に思はれます。此病氣にては往々濃稠となつた分泌物か黑點となつて小さき隆起の頂上にある腺の

出口を塞ぎて居つて、側から爪の先きなどて壓すと容易に白き虫の樣な形ちの分泌物を壓し出す事か出來ます。

之れを治すには一旦發生した蓄溜物は悉く取除く事か必要て、之れには清潔に掃除したる兩拇指の爪にて壓し出たすか、猶適當なるは懷中時計の鑰の凹みを隆起部の項上に當てゝ壓す時には容易に分泌物は出ます。其後に再發せぬ樣に豫防するには時々加里石鹼(流酥)にて洗淨し排泄口の塞づるのを防き、猶望むべきは一週一回位宛夜間に十倍の硫黃軟膏を顏に塗りおき翌朝流酥加里石鹼又は普通石鹼にて洗ひ除かるゝ樣にすれは、追々顏面は滑めらかになり分泌物の蓄積することも防けます。此病氣は十七八才頃春機發動期に多いものてありますか、年を經るにつれて自然に治するものてす。

普通の化粧水なとは一々精査した上てなけれは委しく御答も出來ませぬか、可成避けられた方かよいと思ひます。特に硫黃軟膏を用ゐる際に白粉を塗ると硫化鉛と申す黑き色のものが出來て顏か黑くなりますから悉く注意して頂きたい。

質問者　伊勢の一會員

▲問　十九歲の女てすが七八才の頃から寒風又は冷水等すべて寒氣をかんじますと全身どこでもおもに(顏手足などの風に當る處に多く)赤色となりぼつ〳〵が出來(俗に風の花又は風ぼろと云ふ漸々大きくなり終に一面にはれ始めはかゆく余り出來ますと少しいたく其部は熱くなり少しの間風にあたらず又は火にあぶりすべて温かにして居ればじきに治りますが冬に多く夏でも時によりあまり冷水などにしたして居りますと出來る事もあり升皮膚よわき故ときゝ海水浴又は藥などは色々服用しましたが少しもきゝ**めは御座いませんとうかよき療法御敎授ください**

●答　此病氣は兎角頑固なもので、生來皮膚の血管

に異常な點がある爲めに、種々の刺戟に遇ふと皮膚の血管が擴張して其所は赤く腫れ上り、不快な痒みを起こしてくる、恰かも酒を飲むと皮膚の血管が擴かつて赤くなるのが通例であるのに、人によると青くなる事があるのと一般である。そこで此病氣を起こす刺戟となるものは人々によりて異なり、或人は蝦蟹、章魚、或菓物など特異な食物を取りし後、又は子宮、胃腸などに故障があつて起こる事もある、其他質問者の樣に寒さの刺戟にて起ることもある。

夫故之れを防がむには此病氣にかゝる素因を持つておる人は、宜しく其刺戟となるものを探がし之れに遠ざかる樣にせなければならない、即ち質問者は寒氣を避ける事が最も大切な理けである、其他内服藥もあるが劇藥でもあり且長く持續しなければ効がないからよき醫師に委せらるゝがよい。姑息的には瘙痒の箇所に塗る藥品もあるが全身にては到底行ない難い事であるから略しておきます。

質問者　札幌一會員

●問　高峯譲吉氏の「タカヂヤスターゼ」は如何なる容躰の病氣に功能有之候や又仝粉藥の方は一回及一日の分量幷に仝極量御敎示被下度願上候かしこ

●答　タカディヤスターゼは澱粉を糖化して吸收性のものとなす作用ある醱酵素で、性質上唾液消化の補助劑である。夫故に植物性食物の消化不良の爲めに起こりし胃腸の疾患に用ゐて有効です。特に小兒粉など澱粉質の食料にて人工養育をなす小兒の消化不良を起こし滋養不足し、身躰瘦憔したる時など試みるに適當です

用量は大人にては毎食後二乃至二、五グラム位づゝ用ゐられて差支ありません

質問者　長野　横田いわ子

●問　私家の娘は四年前手にところ〳〵(いぼ)出來候處今にては一面となり色々とまじないなども致し猶醫者の藥をもつけ候へとも更に其功なく誠に困入候何卒よき治療法御教へ被下度願上候かしこ

●答　疣は通常短時又は久しき間の後には自然と脱落して治するものであるが、餘り頑固な時には人工的に取除かなければなりませぬ、それには充分消毒した鋭利の小刀にて切り去り其後を腐蝕しておくかよい、其腐蝕には色々の劇藥を用ゐますか此法は專門家てないと危險てすから畧して申上ませぬ。夫れよりは少く時日はかゝるが簡易て別段危險もなく且又手術的にとりしよりは瘢痕なとを殘こす憂のない法方を御紹介致しましよう。

撒里矢爾酸　一、〇
古魯胃謨　一〇、〇
右混和外用

右の處方に從ひ調劑し之れを筆の先きにて疣の上に塗りおきますと硬き部分は自然と軟らかとなりて剝離し平らかになります。

質問者　伊勢度會郡四郷村　愛讀者

●問　私友人年若くして白髮多く且頭瘡にて困り居候諸々の醫士につき種々塗劑を用ゐ候へとも容易に治癒せず失念致され候ゆへこれをたやすに何か良法も無之候や諸各醫の御考案を願上候

●答　唯頭瘡とのみにては如何なる性質のものか要領を得ぬ處もありますから一寸と御答へは出來ませぬ。

質問者　大阪　某　女

●問　私の友人昨年九月初産致し無事男子分娩致し候處其男兒三十日頃に臍帶を取り數日を經て出臍に相成早速醫師に診察を乞ひしに打捨て置かは數年の後自然に治すへしとて藥も下されず猶念の爲め他の醫師に見せ候處消毒綿を以て臍

にうづめ獨逸製の萬草膏を張り置かば自然に凹むと申され候が實際手術を受けず服藥もせず治すべきものにや又生命には及ぼさゞるものにや御聞かせ被下度願上候早々

●答　別段生命に危險もなく又永き月日の間には自然と陷凹すべければ放置せられて差支へなし、されとも安心出來なければ御説の如く消毒した綿の一塊をおき絆創膏にて上より壓しおかるれば充分です

質問者　東京　山田福治

●問　私儀東京醫科大學產婆講習志願致し度く候まゝ入學試驗の程度年齡募集期在學年數手當義務年限等詳細之御通知願度候

●答　醫科大學附屬醫院の產婆講習生は既に產婆免狀を有するものにて志望者の內より二十名宛每年十月募集する事になつて居りますから先以て產婆學を修め免狀を得らるゝのが必要です

質問者　北海看護婦の一人

●問　私は去三十二年日本赤十字社北海道支部看護婦養生所を卒業致し其後引續き只今以て看護婦を致し居候か是非御地大學病院にて實地練習致し度御採用可被下にや手續等御敎示被下度候

●答　大學附屬醫院にては普通看病法講習科にて修業したる卒業生を滿三ケ年間義務として定規の日給を受けて看護婦の勤務に付かしむるのであります。だから實地練習生として他より採用するとはせむ樣です、序に申上げて置ますが其普通看病法講習生と申すのは品行方正、身體健全にして年齡二十三才以上三十才以下の女子にて家事に係累なきものを一定の試驗(讀書、醫院規則書類。作文、簡易の往復文。算術、加減乘除。體操)の上にて採用し、一年間講習せしむるのです、尤も其間は食料並びに制服は醫院より給與するとになつております。

質問者　東京本所一會員

●問　私事毎冬季に相成候と等しく脣はれたゞれなど致し甚だ苦しみ申候治療法及此樣にならぬ樣常の心掛御敎示下され度願上候

●答　御察し申す處、御身の粘膜か生來抵抗弱はき爲めに冬時になりて氣溫の激變すると、又一方には食物の溫度一定せず、時には熱きを失し、時には寒冷に過ぐる爲めに其刺戟の結果と存します。夫故以後は注意して可成飮食物の寒熱に失せざる樣にせられ、其他刺戟性の食物香料等は避けらるゝとが肝要てす。素人治療としては常に口內を淸潔にするのか大切てある、卽ち

五十倍鹽酸加里水　四〇〇、〇
右含嗽料
又は五十倍硼砂水溶液　四〇〇、〇
右同上
又は二百倍醋酸明礬水　四〇〇、〇
右同上

などにて時々特に食後には必らず含嗽せらるゝとし、脣には三十倍の單寧グリスリン又は蜂蜜を時々筆にて塗り可成乾燥せぬ樣にせらるゝ時は追々治します。



衛生雜話

醫學士　久保猪之吉

●さゝくれ●

隨分ながくなりましたがモー少し爪のお話をしましやう。諸孃は「さゝくれ」が指の先の背中に出來るのを御存知てしやう。地方によッては、「さゝはぐれ」といひますが、「サヽラ」等と同じ詞から來たものでしやうが、爪の附き根の爪母、といふ所の上が毛の

やうに立つ。逆に立つから、「サカモギ」といふ所もあります。西洋では其形が鷄の舌に似て居るから鷄舌といふ名をつけて居る。此「さゝくれ」があれば、醫者などは甚だ困る、ナゼといふにその創口から、病毒などが這入る事がある。「ペスト」のやうなコワイものでないとしても、膿を作る黴菌が這入ッて膿をモッ事もある。又膿を持たないにしても、一寸物にさはッても傷む。大ソー邪魔になるものです

●さゝくれの出來る理由●

諸君、爪をオ出しになッて、背中の爪半月といふ小さい所を見てゴ覧なさい。指の背中から皮が爪半月の上に被ッて居る所があります。此が爪と堅く附いて居れば、爪が伸ると一所に此の皮も伸びる。所が爪の伸び方が早くなれば皮の後の方は、後れて爪に附いた所との間にざけ目が出來る。之がさゝくれの始めてす。ソレが着物か品物がさはる毎に、さけ方が強くなッて鷄の舌のやうになるのです。

●さゝくれを治す法●

第一、さゝくれの出來ないやうにするのが肝腎です。それはドーするかといふに、爪半月の所を見て、皮が被ッて居るのを見れば之が爪と一所に伸びてゆかないやうに、潔なもので爪から剝すやうに押し戻すのです。そーすれば皮がさけやうがない。

次にです。さゝくれの出來た時、之をむしるのは極わるい。之を爪でモギ取らうとすれば、唯、さゝくれを長く伸ばすばかりです。オ仕舞には肉迄さけて、非常に傷むやうになる、ソレで、さゝくれは小さな鋭れる鋏で切ッて後はさはらずにおくのがよい。ソーすれば直ぐに治ります。何か仕事をしやうとおもふ時は絆創膏をはッておくがよろしい。

●堅い靴●

コノ頃、方々の學校で、女の方々でも靴を穿く事が流行しますが、私はこれは大變よい事だと考へます。ことに日本の婦人のやうに、室の內に計り、スッコンで居るやうな人々は靴をはいて自由自在に運動するがよい。運動には靴が一番便利です。しかるに靴

は下駄と違ッて、その人の靴はその人より外に穿けない、足が合はない。恰、洋服が人に應じて變るやうなものです。しかるにその邊の考も無く、或は出來合のもの、或は狭い所のものを穿いて足を小さくすれば、足の指はオ互におしつけられて潰れる。爪は背中が高くなッて兩縁が肉の下にくひこむ昔は爪がのびてコーなるとしてをつたが、實は爪はそのまゝて、肉が盛に盛り上る。

諸孃は生理學の書物でご存知でしやう。支那の婦人は、足を小さくする爲めに小さい内から、堅い靴て足を締めつけ、幾年も之を變らせない。それで足の指はオ互に重なりあッて丁度馬の足のやうな形に圓くなる。ソーいふ足を見ると、指の形が満足で無いばかりでは無く爪迄が伸びる事が出來ずに押し付けられて居る。中には肉の中に折り曲ッて這入ッて居るのもあれば、又は營養がわるくて、ぬけて居るのもある。

コーいふ工合に靴の堅いのは足やその指や、又その爪の形を奇形にするものですから、注意するのが肝要です。

殊に此頃は女の方が、學校へ通ふのに靴を用ゐる習慣となッた、しかるに、日本などにても女は足の小なるを貴ぶ例がある。馬鹿の大足といふ事はその反對を云ッたものである、故に足を小さく見せる爲、堅い靴をも無理して穿いて居るといふ人が無いとも限らない。文明の婦人がたは此點に注意して此弊を矯めさねはなりますまい。

中外彙報

▲本所病院の成蹟　先年臺灣、大阪横濱各地方にペストの流行しましたとき各地の病院の成蹟は甚だ良くありませんで臺灣は百分の八十、大阪は六十八横濱は悉く死亡しました此度東都本所病院の成蹟は大變良くありまして十四名の患者中五名の全治者を出しまして略々撲滅した樣ですがそれは迫

い〱總ての手當が行屆いた譯でありましやう

▲感冒流行　此頃インフルエンザの樣な感冒が大變流行しまして少し六ずかしく申すと猖獗とでも申しましやうか最近の學說では風邪は一種の黴菌病だと申します然るに此頃歐羅巴では橙の汁が風邪の殺菌に効能あるとの傳說があります日本でも昔しからよく人の申す事であり升が全く發汗せしむる効能はある樣てす

▲大消毒　本所區內東は天神川西は橫川南は綿糸堀北は中の鄉業平町より柳島に至る十町以內を亞鉛或はブリキ板で圍ひ鼠の逃げぬ樣にして大消毒を始めつゝありますが橫濱でも又此頃斃鼠が續々あるとて又もや大消毒を初めて居ります

▲傳染病救濟金庫　傳染病流行の時醫師や看護婦が患者の治療看護に從事するは丁度軍人の戰場に向ふと同じ事で若し戰死したときは其の名譽を彰し遺族を扶助するの目的にて此の度び成り立ちました之れは實にかくあるべきことだろうと思ひます詳しいは本誌の廣告で御覧下さい

▲黑死病豫防淸潔法施行手續　東京市の當局者はペスト豫防淸潔法に關する取扱ひ心得を定められましたが本所區のみならず皆人々の此方針で掃除して淸潔にすれば決して黑病も恐ることはないのですから其施行法を左に掲げて置きましやう

▲施　行　法

(一)家屋內外の塵芥を掃除し(二)疊を上げ根太板の一部を取外し鼠族を搜索し(三)天井板は便宜人の出入し得らるゝ丈の板を取外し燈火を以て鼠族を搜索し且つ塵芥を掃除し(四)押入戶棚等は諸物品を取外し鼠族を搜索し(五)下水溝の蓋を取除し鼠族を搜索し且つ塵芥を除去し(六)其他鼠族の通路を發見したる時は羽目板の一部を取外し搜索し(七)倉庫及ひ物置に對しては收容せる物品に依り特に相當の方法を以て鼠族の搜索を行ひ(八)鼠族の搜索を了したるときは床下に生石灰又は石灰乳を撒布し(九)斃鼠を發見したる塲所は石炭酸又は昇汞水を以て消毒を施す

こと

▲取扱心得

(一)清潔法施行に當つては豫め警察官吏と協議の上小區域を限り亞鉛塀を圍らして區劃をなし殺鼠劑を配布し一兩日以後に於て之を行ひ(一)前項の亞鉛塀は順次移設區劃すること但施行濟の場處に再び鼠族の遁逸せざる樣設備し(一)施行日割は前各項設備の都合を參酌して之を定め(一)本施行に係る塵芥は便宜の場所に搬出して燒却し(一)諸會社工場及び廣大なる邸宅其他倉庫に對しては塵芥の處置及び鼠搜索に要する人夫に限り市費を以て支辨し(一)本清潔方法施行に付ては消毒團を派遣し家屋の消毒を執行せしむると

▲鵞紅瘡の發生　此頃東京府下に又々鵞紅瘡蔓延の兆がありまして警視廳で廳令を發して一定の區域内牛羊豚の往來や病毒傳播の疑ひある品物の運搬を止めました

●佐原病院の開院式　下總佐原町に今回設立せられたる佐原病院は青森病院長なりし竹中成憲氏を院長として去八日盛なる開院式を擧行せられしとの事なるが氏は醫界の大家は勿論各方面に學友知己多ければ當日祝詞祝電を寄せられたるもの頗る多かりしといふ

＊　＊　＊　＊　＊

●横井玉子女史を惜む　たなか

横井玉子女史には舊臘以來胃癌の爲惱ませられ去月四日遠逝せられしとは前號紙上に掲載せしが女史が病革まるや其姪子を本會事務所に遣はされ會務を以てせらる余は倉皇として女史を順天堂病院に訪へば病室に至れば女史は寢臺に安臥せられ危篤の症狀は一見膽をして寒からしめき余悵然として其病ひを問ふ女史は氣息奄々たる其中より徐ろに語ッて曰く此の大患にては迚も恢復の見込なし是迄の拙稿誠に慚愧に堪へざるなり願くは會員諸氏に厚く謝せられんことを尚病者の飮食物に就き病中考へ起せしとも多

ゝ々なれど今は其望みなし只終りに臨み一の冀望は我國古來よりの調理法は夫々流派ありて其製法を秘すること多しといへども願くは人々硏究の上廣く開放の主義を取り眞に時世に適當なる調理法を案出せられたきものなりと又語をついで曰く病中は順天堂なる佐藤御夫婦の懇切なる治療と看護とを受け看病婦はいと熟達の者二人を付き添られ苦悶の中も意の如くならざるとなく誠に喜ばしき限りなり又一家の處理もかく〱整理しあれば今は一も思ひ置くとなしかく身躰は痩せ衰へたるとは言へ骨には別條もなければ解剖に附し美術學校繪畫の標本に供せん考へなりとてなき跡迄も世の爲め人の爲めを思はるゝ誠意と云ひ覺悟と云ひまことに感ずるの外はなかりきやがて時刻移り滋養浣腸の時間來りければ余は女史に訣別を告げ悄々として歸途に着けり

今女史が略歷を記さんに女史は十九歲にして横井時春氏に嫁す、時春氏病歿せらるゝや二十一歲にして寡婦となり爾來學術の講習に餘念なく修むる所の學藝甚だ多し和洋裁縫、調理法、女禮式、琴曲、茶道、生花及繪畫に至る迄何れも内外の良師に就きて學習し專ら士女の敎育に從事せられ其薫陶を受けしもの頗る多し、晩近佐藤博士夫妻其他の幇助により女子美術學校を創立するに至り今やます〱盛况に達せるは女史が最後の一大名譽と云ふべきなり嗚呼女史の名は多く知れざるも敎育上盡されし功勞は夫れ斯の如し眞に女史は虛名を售らず實行を先にし女德を重んじたるものと云ふべきなり年を享ると四十有九一月八日校葬を以て神聖なる葬儀を營まれたり嗚呼



大日本婦人衛生會記事

●本會二月例會

二月七日第一土曜日午後正一時より麴町區虎の門内

なる東京女學館講堂に於て例會を開く三宅博士の家庭看護法に關する講演及びスマート女史の吾れ〳〵の住家と其保護法附來客と云へる演題にて吾人の身躰を住家に較比していと興味ある演説をなし三谷雅之助氏一々通譯の勞を取られたり當日役員には鍋島會長濱尾副會長を初め幹事松平芳子、仝穗積松子、仝岡田德子、評議員濱田捨子、幹事三浦敎子、評議員高橋孝子、仝山本多穗子諸氏にして山形支會長たりし關むら子にも出席せられ其他會員及女學館生徒多數の聽講者あり午後四時散會せり

●高崎支會報告

一月初例會記事　横井特別贊成員報

○一月十七日(土曜日)高崎支會本年の初例會を同市鞘町共樂館に於て開らく役員は朝來各分擔を定めて會塲の準備に鞅掌す星野土谷兩特別贊成員は主として來賓の接待に忙はしやがて副會長星野きよ子は姫小松一挿、紅梅白梅二挿、槇二挿、萬年青一挿、黄楊小菊一挿、銀柳紅梅一挿、幽朶一挿、の未生流生花を寄贈して式塲の一側に配置し會員相澤小松子は同社中にして支會に關係ある人々と共に席上に於て左記の生花をなし是亦式塲の他の一側に陳列す即ら

花砙本流生花

花朋庵社中

葉蘭　相澤小松子(花朋庵曉雨)
萬年青　土谷ゆきえ子(曉山)
落霜紅　同　柳枝子(曉柳)
松　新井　學子(曉澤)
たらゝぎ　飯島　とく子(曉雁)
古柳　久保村てる子(曉風)
圓柏　岩田りい子(曉哇)
ゑにしだ　相澤かく子
そなれ　久保村たけ子
椿　關根　はる子
梅　堤　八重子

式塲には一段高く總裁宮殿下の御令旨を捧戴し前き錦襴の服紗を以て之を覆ひ其側傍に薫香馥郁たる紅白梅の大花瓶を備ふるの外更に裝飾を施さず清嚴質素に整頓し午後一時の時鐘と共に會は開かれたり其次第左の如し

●開會の辭　副會長　星野きよ子

●唱歌(君が代)　幹事齋藤れう子　一同唱和
オルガン
令旨捧讀　代讀　支會長　井ノ口鏸子
本會長祝詞　評議員　相川すが子
●福引(第一回)　説明　特別賛成員　秋田聰太郎君
分配　役員一同　同　横井忠國君
●三曲
蓬萊　小幡德賀子　堤　八重子
林　愛子
岸　靜子
●箏
松盤　小幡德賀子
樋口すみ子
●謡曲
東北　馬渡なか子　松本泰子
小鼓　高木直候君
●仕舞
鶴亀　田中實司君
松虫　高木直候君
祝言千秋樂

右終て休憩中茶菓

●福引(第二回)　説明　有諸者數名
分配役員一同及び有志者
●三曲
江の島　小幡德賀子　堤　八重子
林　愛子
樋口すみ子
小督曲　小幡德賀子　樋口すみ子
中村かつ子

右の外尙豫期の餘興ありしも時已に五時三十分なるを以て惜しくも茲に閉會を告けにけり

此の日朝來曇天にして寒氣強く午後二時前よりけ雪を交へたる降雨始まり往復に不便なりしにも拘はらず役員賛成員會員とも多數の來會者ありてサスガニ廣き會場も狹きを覺へ降りしきる雪に外の面は寒さや増しつらんも場内は靄々たる和氣に春風薫り同伴せる乙女子は花に戯るゝ胡蝶かと疑はれ此所彼所打解けて笑ひ興し淸く樂しく半日を暮し舊臘來苦心せし精神衛生の實効を擧け誠に千歳の壽命も延びたらん心地せられたるぞめでたき又昨年茶話會以來の講師并に會務に盡力せられたる人々を招待せしに稲垣陸軍一等軍醫、林醫學士を始め諸氏の快く來場せられ閉會迄會衆と樂を共にせられたる嬉しさと、遠く本會長鍋島侯爵夫人より溢美なる祝詞の郵送を辱ふしたるは當支會の最も光榮とする所なり將又會衆の多數が服裝の質素を同伴家族の上にまで實行せられたるは其勇氣の程も偲はれて奥床敷ぞ見受けられける

初會の故を以て特に金員物品を寄贈せられたるは上文記載の外報告を待ち次號に掲載せん

●高崎支會(十二月例會)

(前號雜誌登載漏れの分)

十二月七日(第一日曜)午後一時より高崎支會の例會を同市宮元町高等小學校内に開く年末の多務と勅來寒風の吹荒むにも拘はらす熱心にも井ノ口支會長始め役員會員は時限前より續々多數に出席あり會場には生理衛生上の圖書數幅を掲け演壇の前面には凹字形に机を設け其上に骨格、模型標品幷に人躰寄生虫胎兒の「アルコホール」漬等を陳列して縱覽に供す此間に於て會費の整理をなし同一時十分より左記諸氏の講話に移る第一席横井忠國氏は『炬燵の利害』と題し其の利と害とを指摘し進んで其注意すべき事項を數段に分ち實例を擧け譬を引きて詳話せられ第二席塚越正六氏は『妊婦の攝生』と題し妊娠の本躰より立論し次て妊期中の攝養方法を數項に分ちて實地的に詳述せらる第三席高草木久吉郎氏は『眼の話』と題し眼球の解剖上關係を圖式に據りて簡明に説述し次て視機の官能等を懇話せられ第四席水谷梅次郎氏は『食器及兒童玩具着色料の話』と題し一般器物着色の狀態より話頭を開き之に關する法律規則幷に衛生試驗の實益に論及し食器殊に當地に於て日常使用しつゝある着色箸、哺乳器の護謨管乳頭及び兒童玩具二三に就て實地試驗上有害なる理由を説明して親しく其實物と試驗の成蹟とを示し家庭に有益なる注意を與へらる

右終て星野副會長は入會者を一同に紹介せられたり次て各員所藏の圖書、標品、寫眞等は順次會場に携帶せられ交互縱覽せば大に直接間接に利益あらんとの主旨にて出品を勸誘せられたり會衆は交互茶菓の間に談笑し且歳末の祝詞を交換しつゝ午後三時四十分散會せり

散會後役員一同は來年の初會を單純なる精神衛生として娯樂の餘興をなす事等を協議し玆に目出度本年の納會を終る可祝

●山形支會報告

●新年會

一月二十四日第四土曜日新年會を山縣師範學校に開く會員及び學生の傍聽者二百餘名來會午後二時開會を報じ先づ君が代の國歌を奏して會員及學生一同起立合唱し講師北島小太郎氏の開會の辭あり次に講師齒科專門高橋榮次郎氏の(齒の養生法に就て)講話あり終つて茶菓を供し福引の餘興ありて午後五時閉會せり

* * * * *

●宇都宮支會報告

●新年會

去る一月十八日第三日曜日をトし栃木縣師範學校樓上に於て本會例會を兼ね新年會を開く來會者九十八名午前十一時開會す會長菊池すが子新年の祝詞を述べ淺田講師はペストに就て種々有益なる講話を爲し終つて餘興に移る

餘　興

福引、かるた、羽子つき、音樂等、

來會者一同に茶菓を饗し今日午後三時散會せり當日は淺田、中里、長野、吉永の諸講師客員神野勇三郎匂坂貞吉君等出席せり。

●講師承諾　神野勇三郎君には本年一月以降支會講師たることを承諾せられたり

●寄附　客員匂坂氏より當日蜜柑二箱を寄附せられたりと

* * * * *

●茨城支會報告

●新年會

去月第三日曜日を以て茨城支會は例の如く好文亭に於て開かれぬ午前九時より十時半まで有志のものゝ手藝をなし同十時より十二時まで鈴木經勳氏の戰爭時の救濟事業と婦人會との關係につき有益なる演說あり其れより直ちに入退會者の報告及び卅五年間の會計決算の報告等ありて晝餐を終り午後一時より波多野醫學士の藥及近易なる機械使用の心得等につき懇說せられ仝午後二時二十分よりは新年初會の餘興として能狂言ありき午後三時半一同樂しく開散せ

り當日の出席數八十餘名なりしといふ

新潟支會評議員池原きん子逝く夫人は去明治廿九年同支會創立以來幹事又は評議員として絕へず盡力せられたる勞は本會の永く忘る能はざる處なり

又新潟支會終身會員八木松代子及本會通常會員（東京）松本友子には何れも病氣の爲め死亡せられたり

○本會は此の訃音に接し

謹みて哀悼の意を表す

私立大日本婦人衞生會



●本會入會者

○事務所申込

●尾張國西春日井郡清洲町甲五十三番戶　通常會員　林　とう子

●香川縣讃岐國高松市　通常會員　岡内　寛子

●東京市四谷區大番町五十六番地　通常會員　道家　しづ子

○臺灣　日下靜子紹介

●臺灣澎湖島病院內　通常會員　藤井　もん子

○本會幹事　三浦敎子紹介

●京橋區銀座　通常會員　岸田　駒子

○神田　大關ちか子紹介

●神田區鍋町三丁目一番地　通常會員　水野　しげ子

○麴町　藤井靜子紹介

●芝區南佐久間町一丁目一番地　特別會員　松村　つる子

●芝區西久保明舟町十九番地　通常會員　黑須　まさ子

○長野贊成員　藤島俊君紹介

●長野縣下伊那郡山本村二一番地　通常會員　中島　るい子

●仝縣仝郡上飯田村百六十八番地　通常會員　蜂谷　せん子

○神田　柳川こま子紹介

●淺草區元吉町十三番地　通常會員　森田　ちか子

●仝所　通常會員　三森　千枝子

○京橋　白神しげ子紹介

●京橋區南八丁堀一丁目十五番地　通常會員　岡本　春子

○麴町　清洲富子紹介

●麴町區富士見町五丁目廿四番地　通常會員　内田　わか子

○芝高輪　金原禎子紹介

●京橋區西紺屋町京橋看護婦會　通常會員　桑原　美代子

○京橋　秋田治子紹介

●京橋區舟松町五番地　通常會員　池谷　八重子

○岐阜贊成員　加藤春夫君紹介

●岐阜縣安八郡名森村大字森部　通常會員　岡田　ます子

○本會幹事　高木から子紹介

●淺草區左衛門町一番地　特別會員　中山　幸子

●宇都宮支會入會

○宇都宮　鈴木よし子紹介

●宇都宮市四條町七番地　通常會員　横山　ひさ子

○仝　中島とみ子紹介

●宇都宮市旭町　通俗會員　增田　ちよ子

○仝　吉永講師紹介

●宇都宮市中河原町　通常會員　中里　やす子

●茨城支會入會

○茨城　大沼こう子紹介

●水戸市上市藤澤小路　通常會員　長尾ちやう子
●茨城縣眞壁郡里子村大字水戸　通常會員　飯田こう子
●仝久慈郡學田村大字東大野　通常會員　深津まつ子
●仝東茨城郡下大野大字東大野　通常會員　川和まさ子
●仝鹿島郡鉾田町　通常會員　安松あさ子
●茨城縣那珂郡後台村大字後臺三〇　通常會員　三田寺みの子
●仝眞壁郡河間村大字野　通常會員　田谷むら子
●仝那珂郡菅谷村大字菅谷　通常會員　横山ふで子
●仝東茨城郡川根村大字下飯沼　通常會員　東崎すゑ子
●仝東茨城郡磯濱小學校　通常會員　永岡ふじ子
●水戸市上市藤澤小路　通常會員　若林すむ子
●仝眞壁郡上野村大字中上野　通常會員　三村いく子

●山形支會入會

○山形　黒柳きぬ子紹介

●山形市　通常會員　白田しげ子
●仝　通常會員　林　せん子

○山形　北島學十紹介

●山形市　通常會員　中村やよ子
●仝　通常會員　工藤せ　子

●高崎支會入會

○高崎支會申込

●高岸市　通常會員　新井　百子
●仝　通常會員　戸塚　尺子

●正誤

前號雜誌新潟支會入會者の部左の兩氏に對し誤謬を正さん爲め玆に再錄す

●新潟支會副會長田中ぬい子紹介　特別會員　荻原　さい子
●仝幹事梅木しづ子紹介　特別會員　鈴木　たけ子

●交換寄贈雜誌

日本婦人　麴町區元園町二ノ四(一月分)　帝國婦人協會
日本赤十字　京橋區南傳馬町一、(一月分)　日本赤十字發行所
防長醫事　山口縣山口町(一月分)　防長醫事社
統計集誌　京橋區瀧山町(一月分)　東京統計協會事務所
おんな　麴町區下二番町三七(一月分)　大日本女學會
體育　麴町區飯田町三丁目(一月分)　日本體育會
大日本私立衛生雜誌　京橋區宗十郎町七(一月分　大日本私立衛生會
農產時報　府下淀橋(一月分)　農產商會
藥石新報　大阪東區今橋(一、二月分)　藥石新報社
婦人新報　赤坂區榎坂町(一月分)　婦人新報社
愛國婦人　麴町下二番町(一、二月分)　愛國婦人發行所
草樂新聞　大阪心齋橋(一、二月分)　草樂新聞社
產婆學雜誌　日本橋區濱町三ノ七、(一、二月分)　日本產婆協會
婦人世界　大阪南區末吉橋通(一月分)　浪華婦人會

教育實驗界　本郷區森川町一(一月分)　育成會
東京教育雑誌　神田區一橋通廿一、(一月分)　東京教育雑誌發行所
薬學雑誌　牛込區新小川町二ノ八、(一月分)　日本薬學會事務所
廣島衛生醫事月報　廣島市猫屋町(一月分)　廣島衛生醫事月報社
婦女新聞　牛込區九軒町四一、(一、二月分)　婦女新聞社
越佐教育雑誌　新潟市寺裏通(一月分)　越佐教育雑誌社
國家醫學會雑誌　本郷區元富士一、(一月分)　國家醫學會事務所
大日本耳鼻咽喉科會報　本郷區丸山新町二十(一月分)　大日本耳鼻咽喉科會
新潟縣衛生會雑誌　新潟縣廳内(一月分)　新潟縣衛生會
中外薬報　神田區小川町一(一月分)　中外薬報社
婦人と子とも　本郷區女子高等師範學校(一、二月分)　フレーベル會
工業雑誌　京橋區尾張町一ノ一(一月分)　東京工業雑誌社
山陽新報　岡山市榮町(二月分)　山陽新報社
豐國新聞　京都市下京區四條通(一、二月分)　豐國新聞京都局
大阪醫學會雑誌　大阪東區淡路町一ノ三六(一月分)　大阪醫學會
産科婦人科學雑誌　日本橋區濱三ノ七(一月分)　産科婦人科學會事務所
婦人　神戸市三ノ宮町一ノ一七三(一月分)　婦人協會
工手の母　大阪北區西野田新家四ノ町(一、二月分)　工手の母新聞社
教育衛生雑誌　兵庫縣美嚢郡上淡河(一月分)　私立教育衛生會本部
山梨衛生週報　甲府市代官町廿六(二月分)　山梨衛生週報社
帝都新聞　京橋區築地南飯田川岸(一月分)　帝都社
衛生報知　神戸市元町五ノ九十七(一月分)　大日本私立衛生會神戸支會
衛生談話　麹町區飯田町四ノ三十一、(一月分)　通俗衛生茶話會
發明新報　京橋區木挽町十ノ八(一月分)　發明協會
福田會月報　麻布區笄町百三、(一月分)　福田會育兒院
衛生事務講習所同窓會雑誌　京橋宗十郎町七、(二月分)　衛生事務講習所同窓會



轉居

▲會員諸婦御轉居の際は可成新舊兩所御記入事務所宛御一報相願候

●神田區三崎町一ノ一森田旅館へ　美島近一郎君
●台灣台北西門外街三丁目六十四番戸へ　田村ませ子
●名古屋市紙漉町一丁目五十一番地へ　石栗・とせ子
●神田區錦町一ノ十伊藤宗三郎方へ　陽すが子
●甲府市東青沼町五十一番戸へ　村松さく子
●麹町區富士見町五ノ二十四へ　清洲富子
●千葉縣印旛郡臼井町江原九十四へ　岩佐くに子
●静岡縣榛原郡相良町須々木二十八へ　名波なを子
●岡山縣　蜂谷しげの子
●千葉縣佐倉町宮小路　宍戸幸子
●朝鮮國釜山港京釜鐵道會社々宅二號へ　稲垣しづ子
●和歌山縣西牟婁郡田邊榮町新町へ　那須よしゑ子
●赤坂區溜町小松宮家内へ　石川たき子
●但馬國美方郡湯村へ　岡田敏子
●麹町區富士見町六ノ四高井方へ　武笠美以子
●石見國鹿足郡畑迫村へ　嚴本品二郎君
●麹町區元園町一ノ六田中方へ　志賀かま子
●麹町區飯田町一ノ八船曳みき子方へ　佐野久子

會長 子爵岡部長職君 初號（二月三日發行）

新學期開始 通信教授

女子學術講義

本會は東京府教育會の附屬として今回新に設立せられ我國女子の學校にて親しく教授を受くる事能はざるものと在校女學生の參考として通信教授の方法を設け高等女學校の學科程度に基き一般女子に必要なる學科目を教授するものなり

講師及び受持學科

修身科	女子高等師範學校教授	篠田利英
國語科	女子高等師範學校教授	佐方鎭子
地理科	東京府立第一女學校長	伊藤貞勝
歷史科	東京府立第二高等女學校教諭	高木みつ子
家政科	東京府立女子師範學校長、東京府立第二高等女學校長	林吾一
裁縫科	華族女學校學監	下田歌子
作法	女子高等師範學校舍監	喜多見佐喜子
兒童心理	華族女學校講師 日本女子大學校講師	小笠原清務
女子衞生	東京高等師範學校教授 文學士	松本孝次郎
割烹科	東京女醫學校長	鷲山彌生子
	日本女子大學校講師 治庭會教授	赤堀峯吉

尚講義錄附錄として每號（初號二月三日發行）朝野名家の論說會員其他の投稿にかゝる作文和歌俳句并に女子の須知を要すべき社會の出來事忠孝貞節に關する美談等を載せ且每學科講義に用ひたる文字術語等稍々難解のものには一々註釋を加へて卷末に附載することゝせる等一種獨特の方法を工夫せるものなりと云ふ

●講義錄は每號每月三日一回發行にして紙數百五十頁餘壹ヶ年半卒業とす

●入會金貳拾錢●會費三ヶ月分七十五錢六ヶ月分三圓五十錢一年三圓一學期間十八月金四圓五十錢右の割合とし分納するも差支なし（但し郵券[illegible]）規則二錢にて送附

東京市神田區一ツ橋通町廿一番地
帝國教育會內東京府教育會附屬

女子講習會

私立大日本婦人衛生會茨城支會規則

第一條本會開設の趣旨及目的は凡人生の幸福を保持するには完全なる教育を忽まさる可からず之を望まんとするには必ず衛生と相俟ちて而る後ら始めて全き事を得るならん。されば吾人は現今東京に於る該本部に限りして更に茨城支會を開設し吾人が日常實行する衛生上の事項をして益研究し益改善を圖りてその發達を互に努め力めんとするに在る而已●第二條本會は私立大日本婦人衛生會茨城支會として之を當水戸市に置く●第三條本支會々員たるを望む婦人は何人にても入會することを得●第四條入會手續入會の節は氏名族籍住所等を明記し本支會事務所に申込むものとす。但し會員證は東京本部へ通知し然るのち之を交附すと雖とも徽章代は豫め前納せらるへし●第五條會員種類會員を分ちて特別。通常。終身の三種とす終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三十錢以上通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むるよ●第六條男子にして本支會の趣旨を贊成する者は之を贊成員とす其の會費は本支會員に仝じ但し本支會に功勞ある者又は本支會に於て贊成員たることを認みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるへし●第七條本支會員は本部にて毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條退會せんとする者は其旨本支會事務所に報知するへし。(死亡等は親戚知人より通知せらるへし)●第九條本支會に左の役員を置く支會長一名、副支會長一名、幹事六名、評議員十名、書記、會計、庶務は幹事中より各二名づゝ互撰分擔す●第十條役員は任期滿一ヶ年とし毎年五月總會に於て投票を以て之を定む●第十一條本支會長は本會を總理し副支會長は支會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し會計書記庶務各其事に當る(但し書記は都合により定員外のものに臨時依托する事あるへし)●第十二條集會は例會總會評議員會及臨時會とす集會(八月を除く外毎月一回第三の日曜日に之を開く總會五月適宜の日を以て之を開く急要の件あるときは臨時會若くは評議員會を開きて評議する事あるへし●第十三條毎會學識經驗ある知名の士に囑托して衛生上の講義演説又は之に關したる實驗談をも爲し本支會員に聽講せしむ但會員は知人家族等誘引して參會することを得(此際出席の衣服は總て質素たるへし)●第十四條講義演説等は男子の傍聽を禁ず但し贊成員若くは會員の縁故ある男子は此限りに非ずと雖本支會の都合により臨時謝絶することあるへし●第十五條毎會開會の實況等を本部へ送致するものとす●第十六條會計本支會の所有金は本支會の名義を以て第百四銀行に預け置くものとす●第十七條本支會々費の收入金は其一部を便宜本部へ回送するものとす●第十八條(總會に於て會計の收支決算及成績等を報告するものとす●第十九條會員中若し本會の障害となるへき所爲ある者又は會費を滯納するものある時は本支會長評議會の決議を經て除名する事あるへし●第二十條茲に記述したる數條の他その必要と認むべき事項あらば成る可く本部の規則を適用するものとす●第二十一條本支會規則は本支會長の意見又は會員二十名以上の贊成により總會の意見を經るに非されば漫りに之を變換する事を得ず。

明治三十四年十月創立　水戸市上市川見小路二十五番地　茨城支會

私立大日本婦人衛生會高崎支會規則(明治三十五年四月創立)

●第一條當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するを目的とす●第二條當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄合町五十番地に置く●第三條當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三個月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は會員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得●第九條本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす●第十一條會員及贊成員の家族並に篤志贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絶することあるべし●第十二條本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす●第十三條總て會費の徴收は集會の席上に於てするを例とす但三箇月分以上宛前納すべし●第十四條支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條會員又は會外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す●事務所　高崎市寄合町五十番地

私立大日本婦人衛生會 新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓 特別會員毎月金參拾錢 通常會員仝金貳拾錢 [illegible]會員甲毎月金拾錢乙仝金五錢●第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條 會費は維持料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條 本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

事務所新潟市學校町二番町四十七
和田くに子方

明治卅九年四月創立　新潟支會

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は樸誠質素なるを要す上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立
事務所山形市旅籠町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第壹條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスル片ハ其旨事務所ニ屆出ツベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分ヲ納ムベシ新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費ヲ設ケ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ隣聽セシムベシ●第八條 服裝ハ樸誠質素ナルヲ要ス上着及羽織ハ絹布ヲ用ヰザルヲ決ス●第九條 此規則ニ掲ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

事務所宇都宮市馬場町

明治三十四年二月三日創立　宇都宮支會

▲本金庫は社會が忠勇なる戰死の軍人を崇敬するが如く傳染病の豫防救治に從事して途に其職務に斃れたる官吏、公吏、及看護夫、看護婦に救濟金を贈貽し以て國家が扶助吊慰の及ばざる所を助け社會が慈善事業の之なき缺間を補はんか爲め設立せり

▲本金庫は廣く右の趣旨に適ひたる志士に救濟金を贈貽す而して其贈貽金は大方の義金を集めたる利殖金より支出するものなれば世の慈善家諸氏は金員の多少を問はず奮て寄贈あらんことを望む

東京市京橋區宗十郎町七番地
大日本私立衛生會内
電話新橋(二一四七)番

財團法人 傳染病救濟金庫

明治三十五年十二月廿三日設立認可

▲本金庫は今回「ペスト」病毒に斃れたる故本所病院醫員醫學士横田利三郎氏の遺族に金參百圓を贈貽せり

▲本金庫の前身は明治三十二年大阪市に於て「ペスト」流行の際病毒に斃れたる故檢疫官馬場碩一、醫師山中篤衛、若林啓三氏の遺族に各々三百圓を贈貽せり

▲本金庫は御申込次第規則書類を差出し東京府下は寄贈金受取人を派出す、

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會々員は其會員たることを表章するため左の徽章を用ゆ

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は左の實價を以て會員に頒つ





●通常會員章

第三號　メッキ製拾五錢、送費六錢

第二號　正銀製五拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章

第一號　壹圓、送費九錢

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるへし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らす御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候也但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又た價格表記通運便、何にても差支なし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數に應じ本會雜誌進呈の事

廣告料　一頁五圓半頁弐圓二分一以下同之　●特別廣告一頁拾圓半頁弐圓二分一以下同之

本誌一部定價弐拾錢

發行所　東京市牛込區矢來町三番地中丸、四　私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京牛込區矢來町三番地　田中微三郎

印刷人　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地　渡邊智

明治廿六年二月二十日印刷同年…發行（毎月二回十五日發行）

東京市牛込區市ヶ谷加賀町　株式會社秀英舍第一工場印刷